

総合計画中期実施計画策定に向けた分野別意見交換会
「これからの逗子のまちについて話し合おう」実施結果

1. 目的

2023 年度から 2029 年度までを計画期間とする中期実施計画の策定にあたって、市民参加のもと意見交換を行うもの。

2. 参加者の募集方法

広報ずし、市内広報掲示板、市ホームページ

3. 開催方法

オンライン（Zoom）

4. テーマ

総合計画基本構想の5本の柱（節）の取り組みの方向を1つのテーマとして設定した。

第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち

- 1 「その人らしく生きること」をお互いに支え合う福祉のまち ⇒ 地域福祉
- 2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち ⇒ 健康
- 3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち ⇒ 高齢者
- 4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち ⇒ 障がい福祉
- 5 誰もが心豊かに子育てできるまち ⇒ 子ども・子育て支援

第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち

- 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち ⇒ 生涯学習
- 2 文化を新たに創造するまち ⇒ 文化
- 3 スポーツを楽しむまち ⇒ スポーツ
- 4 学校教育の充実したまち ⇒ 学校教育
- 5 子どもも大人も共につながり成長していくまち ⇒ 社会教育

第3節 自然と人間を共に大切にするまち

- 1 自然を大切にするまち ⇒ 緑
- 2 廃棄物による環境負荷の少ないまち ⇒ ごみ
- 3 温室効果ガス排出の少ないまち ⇒ 地球温暖化
- 4 暮らしと景観に配慮したまち ⇒ 景観

第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち

- 1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち ⇒住環境
- 2 災害に強く、犯罪のない安全なまち ⇒防災・防犯
- 3 歩行者と自転車を優先するまち ⇒歩行者・自転車
- 4 都市機能の整った快適なまち ⇒都市機能
- 5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち ⇒商工業

第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち

- 1 市民自治のまち ⇒市民自治
- 2 誰もが尊重され、自由で平等なまち ⇒人権・男女共同参画
- 3 情報化で、よりよく暮らせるまち ⇒デジタル化
- 4 世界とつながり、平和に貢献するまち ⇒国際・非核平和

5. 日程及び参加者人数

回	日程	テーマ	市民参加者数	参加所管名
第1回	令和4年2月26日(土) 10:00～12:00	地域福祉、障がい福祉	4人	社会福祉課、障がい福祉課、 国保健康課、高齢介護課、 子育て支援課、保育課
		健康、高齢者	3人	
		子ども・子育て支援	4人	
第2回	令和4年2月26日(土) 14:00～16:00	社会教育、生涯学習	7人	社会教育課、市民協働課、 学校教育課、文化スポーツ課
		学校教育	5人	
		文化、スポーツ	4人	
第3回	令和4年3月5日(土) 10:00～12:00	景観、緑	6人	まちづくり景観課、緑政課、 環境都市課、資源循環課、 環境クリーンセンター
		地球温暖化、ごみ	8人	
第4回	令和4年3月5日(土) 14:00～16:00	都市機能、防災・防犯、住環境	5人	都市整備課、防災安全課、 まちづくり景観課、 環境都市課、経済観光課
		商工業、歩行者・自転車	5人	
第5回	令和4年3月12日(土) 14:00～16:00	デジタル化	3人	デジタル推進課、市民協働課
		市民自治、人権・男女共同参画、 国際・非核平和	4人	

6. 意見概要

※意見には別の節で聴取した意見を含みます。

第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち

1 「その人らしく生きること」をお互いに支え合う福祉のまち

- ・個人の困りごとを表出するのが難しい。関わっていく事が難しいと感じる。そのために、地域の活動等を通じて顔見知りを増やしていきたいと思っている。
- ・逗子は全般的に見て子育てとかのほうが中心で高齢、障がいについては力(施策)が薄いのではないかと。HPをみてもそう思う。条件的には恵まれた人もいる。
- ・私の地域は自治会がないところ。ボランティアをやっているけれども、以前は困りごととかきいてまわっていた。発信できる、情報を収集できる方法がない。困っている人がいても、その人が動かなければ見つけられない。声を発せられない人が見つけられない。インターネットで困っている人の情報がまとまっていて収集できるサイトのようなものがあればよいと思う。
- ・逗子は他市に比べて色々な活動を行っていると思う。他市では障がいのある人に対しては、見て見ぬふりをしているようなこともあった。心配だと言って通報はするが、直接対応はしない。意見をうかがう立場だと思っていた。
- ・個人情報保護法ができてから、あまり知ってはいけないような風潮。表れなど名前がないところが増えてきている。近所に住んでいてどんな人かはわかっているけれど、声かけづらい。心配なことではある。
- ・8050 問題についてもどういった手伝いができるか考えている。人がつながることができる仕組みを若い人のネットワークで広げていければいいと思う。
- ・日本の老人福祉法が制定されて 60 年になる。地域の老人の健康維持などについて定めている。老人クラブについて、発足当初は随分人数がいたが、会員数の激減している。逗子の高齢者人口のうち今は 1,000 人を切っている。みんなで集まってひとつの関わりをもつ場が機能しづらくなっている。
- ・私は 80 代だが、60～70 代の人の関心ごとが理解できない。皆さんの気持ちが知りたいと思っている。
- ・老人クラブの広報として機関誌を発行してその費用を市民の皆さんから協力いただいている。コロナ禍で印刷費用も賄えなくなってしまった。老人福祉法が精神が全く生かされていない。
- ・自分に逗子はもったいないくらい良いまち。高齢者のことはあまり取り上げてもらっていないような気がする。
- ・おそらく市内の老舗の自治会 80 代はいても 60,70 代はいない。
- ・逗子は充実していると思っている。地域によっては自治会がない。必要がなかったから。例えば防災的なもの、何かあったときどうなるのだろうかという心配がある。

- ・何かあったときの対応について市に考えてほしい。防災倉庫のようなもの？河川が近いといったこともあり不安。
- ・病院などの誘致、逗子の人口に対してかなり大変だと思うが、検査等が充実してくればよいと思う。
- ・子育て支援センターや療育教育総合センターが市内に点在していることで、移動が大変。福祉的機能を1か所にまとめられたら利便性が上がるだろう。
- ・障がいのある人にも高齢者にも日常の活動を円滑にできるような支援があればよい。外出時や通院時の移動手段や気軽に集まれる場所(サロンのようなものなど)。
- ・高齢者センター、バスが走っている。それに対して高齢者に(周知が)徹底ができない。
- ・60、70代の人達の考えを引き出していきたい。情報発信の機会が失われてしまっている。
- ・逗子に総合病院は絶対作ってほしい。ずっと使えるもの。
- ・地域になじんだことがない60〜70代は地域活動への参加に抵抗があるのではないか。
- ・私が後期高齢者になる前は地域を一回りするようなバスや路面電車があればいいと思う。
- ・デマンドタクシーは便利だが、乗合のほうが、コミュニケーションも図れて地域の交流につながれてよい。
- ・目的がなくてもふらっと外に出られるような機会、集まれる場所があるとよい。
- ・集まり、情報に関心がなくなってきつつある。懸念されている。
- ・コロナになってからあまり人と会わない。会話の機会が減っている。しゃべらないであいさつしたりとか、実際見てちょっとやせたなとか、前より元気がないなとか、実際あったり会話したりしていたときはすぐわかっていた。今は声かけづらいような感じになってきている。何かに誘うことも遠慮がでてしまう。
- ・自分自身も色々なところが衰えてしまっている。活動のエネルギーの低下。きれいさっぱり前のように戻ることは期待できないので、場所や機会が見いだせるといいと思う。
- ・コロナで健康阻害されている。カラオケで歌を歌う機会を設けたが、皆さん声が出なくなっていた。健康状態がよくない。
- ・コロナでなくても、地域の情報に関心の薄い世代が多数派となっている。総合病院ができれば、それが待合になる。
- ・久木の住民自治協議会では、困りごとを表に出すことが、個人の感情として大変難しいという事情がよく話題に出る。
- ・私の住んでいる逗子市逗子地区は、特に家に誰も入ってほしくない人のほうが多いのではないかという肌感覚がある。
- ・久木の自治協議会ではこの点を解消するために、いかに普段の関わり、自治会規模のイベントで顔見知りを広げることを目指している。
- ・おそらくは、市内の老舗の市民活動、自治会町内会を含め、80代はいても、60〜70代はいないのが現状ではないだろうか。時代というか世代間の大きな価値観の溝があると思う。昭和の活動モデルから、相当脱却した形の福祉を目指しないといけないのではないか。

- ・障がいのある方にも、ご高齢の方にも、日常的な活動を円滑にする資源があるといいと思う。
例えば、ハイランドから出られる足、運動公園まで行かれる足、ちょっと参加できる喫茶、なんとなく寄れる映画館などがあるとよい。
- ・大きな病院は、本当に必要なかどうかは疑問。それより、クリニックまでの足、近隣の大きな病院までの足の問題ではないかと思う。
- ・地域になじんだことのない、子どもの時から都会のほうを向いていた 60～70 代は、地域で集まることに抵抗があるのではないか。
- ・毎日、とりあえず一回りすることを日課にできて、その日その日で下車するところが変わるようなバスや路面電車があればいいと思う。
- ・デマンドタクシーは便利ですが、乗合でなければ、出会いがなくてつまらないかもしれない。
- ・理由なくなんとなく集まれるところじゃないと、都会人は出てこないと思う。
- ・コロナでなくても、地域の情報には関心が薄い世代が多数派になりつつあると思う。

【意見まとめ】

- ・困りごとなどがなかなか見えにくい。
- ・移動の手段が逗子では地域性や高齢者の身体的な問題があり難しい課題となっている。
- ・誰かに相談しやすい仕組み作りが必要。
- ・高齢者に関しては地域の問題に関する「情報」や「人の集まり」に関心がなくなってきている。

2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち

- ・未病を防ぐことが一番大切。逗子市の規模で総合的な病院を作るのは現実的ではない。それよりも予防に注力したほうがいい。
- ・近所に高齢夫婦がおり、奥様が倒れて救急搬送された。その際ご主人がスマートフォンを持っていなかったため、関係者とつながれなかったため大変だった。高齢者もスマホを使えるようになれば、より安心できる。
- ・アプリで健康ゲットキャンペーンはよかった。知り合いが「ほら、こんなに歩いたのよ」と嬉しそうに見せてくれた。今後も楽しみながら健康づくりができる取り組みを行ってほしい。
- ・今後ますます高齢者が増えたときに近くに総合的病院があったほうが安心である。
- ・病院などの誘致、逗子の人口に対してかなり大変だと思うが、検査等が充実してくればよいと思う。＜再掲＞
- ・逗子に総合病院は絶対作ってほしい。ずっと使えるもの。＜再掲＞
- ・大きな病院は、本当に必要なかどうかは疑問。それより、クリニックまでの足、近隣の大きな病院までの足の問題ではないかと思う。＜再掲＞
- ・総合的病院誘致の取り組みは、今後オンライン医療が進む中で反対。限られた逗子の土地なの

に、もっと将来について考えていただきたい。〈再掲〉

3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち

- ・コロナになってから高齢者が集う場所が無い。世話役が苦勞して予約していた。そうした集える場所が多くあるとよい。
- ・田越川付近は歩道が狭く高齢者の歩行に支障がでるため、歩道の整備をして欲しい。
- ・高齢者に限らず、子どもが交流する機会があれば良いと思う。高齢者施設と保育施設が合体している施設もあることから、交流する場を設けて欲しい。
- ・コロナの中で、対面活動が少なかった。対面が基本なので満足にできず残念。
- ・高齢者がスマートフォンを持っていることが多いので、それを活用できるような機会を作って欲しい。
- ・せせらぎ等の支援もタブレット等活用できればよい。
- ・高齢者の増加に伴い、空き家も増えて心配。
- ・一人暮らし高齢者の見守り等、民生委員にもICTが使える環境が望ましい。
- ・緊急時等、高齢者の方の意思疎通が円滑に進むようにICTを活用したいと考えている。
- ・高齢者が「こうしたい」という思いが、円滑に伝えられるようになって欲しい。
- ・デイサービス等の迎えの車が邪魔。集約できないか。
- ・集会室の少なさについては、今ある施設を活用する。街中の屋間空いている場所。特に宗教施設がアクセスも良く、使いやすいのではないか。役所が直接コンタクトできないので、施設情報等の枠組みを作ってもらえたら、団体として登録し、使えるようになると思う。
- ・道路に関しては、電信柱と段差を何とかして欲しい。
- ・高齢者と子どもとの交流については、スマホの使い方を中学生から学ぶ等の方法を取って欲しい。
- ・有線放送で行方不明情報を流すとか、小中学生が発見した場合の対応について、教えて欲しい(障がいのある方も含めて)。そうしたことがきっかけで交流が始まれば望ましい。
- ・子どもを叱るな来た道だ。年寄りを笑うな行く道だ。という言葉聞いた。今の高齢者は大変な思いをしているので、そういう人たちに対するリスペクトを施策に取り入れて欲しい。子育て世代も大事だが、高齢者に対するリスペクトが重要と思う。他人ごとではなく、自然の豊かさだけではなく、人のつながりが温かいまちとなって欲しい。そうした思いが感じられるまちとなって欲しい。
- ・地域性にもよると思う。小坪は逗子市の外れになるが、貧富の差も激しいが、自然は皆に平等である。
- ・いかに早く行政に客観的に自分の状況を説明できるようにしなければならない。自分の状況を素直に理解できるようになりたいと思っている。それを受け入れるまちとなって欲しい。

- ・近所に高齢夫婦がおり、奥様が倒れて救急搬送された。その際ご主人がスマートフォンを持っていなかったため、関係者とつながれなかったため大変だった。高齢者もスマホを使えるようになれば、より安心できる。＜再掲＞
- ・他分野に比べ、高齢、障がいに関する施策が足りないのではないか。＜再掲＞
- ・障がいのある人にも高齢者にも日常活動を円滑にできるような支援があるとよい。外出時や通院時の移動手段や気軽に集まれる場所(サロンのようなもの)など。＜再掲＞
- ・敬老パス(バス)を充実させてほしい。
- ・逗子は全般的に見て子育てとかのほうが中心で高齢、障がいについては力(施策)が薄いのではないか。HP をみてもそう思う。条件的には恵まれた人もいる。＜再掲＞
- ・日本の老人福祉法が制定されて 60 年になる。地域の老人の健康維持などについて定めている。老人クラブについて、発足当初は随分人数がいたが、会員数の激減している。逗子の高齢者人口のうち今は 1,000 人を切っている。みんなで集まってひとつの関わりをもつ場が機能しづらくなっている。＜再掲＞
- ・私は 80 代だが、60～70 代の人の関心ごとが理解できない。皆さんの気持ちが知りたいと思っている。＜再掲＞
- ・老人クラブの広報として機関誌を発行してその費用を市民の皆さんから協力いただいている。コロナ禍で印刷費用も賄えなくなってしまった。老人福祉法の問題が全く生かされていない。＜再掲＞
- ・自分に逗子はもったいないくらい良いまち。高齢者のことはあまり取り上げてもらっていないような気がする。＜再掲＞
- ・障がいのある方にも、ご高齢の方にも、日常的な活動を円滑にする資源があるといいと思う＜再掲＞
- ・一番大切なのは自分の健康だと思いついているが、逗子市内のトイレが少ない。今後高齢化が進むと、散歩をして健康維持をする人が増えると思うため、きれいなトイレを設置してもらえると有難い。
- ・高齢者センター、バスが走っている。それに対して高齢者に(周知が)徹底ができない。＜再掲＞
- ・おそらくは、市内の老舗の市民活動、自治会町内会を含め、80 代はいても、60～70 代はいないのが現状ではないだろうか。時代というか世代間の大きな価値観の溝があると思う。昭和の活動モデルから、相当脱却した形の福祉を目指したいといけないのではないか。＜再掲＞

4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

- ・他分野に比べ、高齢、障がいに関する施策が足りないのではないか。
- ・他市に比べると、障がい者施策は手厚いと感じる(色々な活動を行っている)。
- ・子育て支援センターや療育教育総合センターが市内に点在していることで、移動が大変。福祉

的機能を1か所にまとめられたら利便性が上がるだろう。

- ・障がいのある人にも高齢者にも日常活動を円滑にできるような支援があるとよい。外出時や通院時の移動手段や気軽に集まれる場所(サロンのようなもの)など。〈再掲〉
- ・逗子は全般的に見て子育てとかのほうが中心で高齢、障がいについては力(施策)が薄いのではない。HPをみてもそう思う。条件的には恵まれた人もいる。〈再掲〉
- ・障がいのある方にも、ご高齢の方にも、日常的な活動を円滑にする資源があるといいと思う。〈再掲〉
- ・おそらくは、市内の老舗の市民活動、自治会町内会を含め、80代はいても、60～70代はいないのが現状ではないだろうか。時代というか世代間の大きな価値観の溝があると思う。昭和の活動モデルから、相当脱却した形の福祉を目指さないといけないのではないかと。〈再掲〉

5 誰もが心豊かに子育てできるまち

- ・待機児童について、保育園の入所基準があるが、近年はいろいろな働き方があるので、柔軟に対応して欲しい。
- ・保育園の利用基準は、今も変わらずバツサリ切られる。柔軟でない。
- ・入所条件が17時間必要であるのに、市の職員募集要件が15時間である等、矛盾しているケースがある。
- ・市は、入所条件について、細かな利用者のニーズをリサーチすべきである。
- ・小児医療証について、葉山町は所得制限がないが、逗子市はあるので、逗子を選んでもらう点でデメリット。以前は始発があるというメリットがあったが、リモートワークが進み、葉山町の方が良いという実態になっている。
- ・高齢者バスに子育て世代も乗せてほしい。運動公園はスマイルを含めて良いところなので、利用しやすくなる。
- ・スマイルは、ほっとスペースやカフェがあり、子育て世代は大変助かる。パパや高齢者など、全世代が集まれる場所として、子どもだけの支援でなく横のつながりが望まれる。
- ・第一運動公園は、スマイルを含めて子どもが騒いでも嫌な空気にならない場所である。
- ・市内各所のスマイルのように子どもが騒いでもよい場所があるとよい。
- ・子どもたちがたくさん来ることがこれからの逗子を創っていくことになる。子どもの支援だけでなく、横のつながりを大切に、育てる人やその周りの人たちへの支援も必要である。
- ・横の連携を構築し、また、逗子の特色の情報提供をもっと積極的にすることで、子育て支援だけでなく、逗子の魅力の発信に繋がっていくのではないかと。
- ・今までの総合計画の8年からは時代も人も変わっている。この先の8年間はコロナ禍という状況も踏まえ、今までと同じではないという意識を持って目標を掲げなければならない。
- ・子ども民生委員という活動をしているという話を聞いた。地域の小学校で挑戦してみたい。

- ・子育て支援センターや療育教育総合センターが市内に点在していることで、移動が大変。福祉的機能を1か所にまとめられたら利便性が上がるだろう。＜再掲＞
- ・逗子は全般的に見て子育てとかのほうが中心で高齢、障がいについては力（施策）が薄いのではないかと。HPをみてもそう思う。条件的には恵まれた人もいる。＜再掲＞
- ・高齢者に限らず、子どもが交流する機会があれば良いと思う。高齢者施設と保育施設が合体している施設もあることから、交流する場を設けて欲しい。＜再掲＞
- ・宇都宮市では、10歳の誕生日に半分成人式のイベントがあった。親子や子ども達に参加できるよう企画してほしい。＜再掲＞

第2節 共に学び、共に育つ「共育(きょういく)」のまち

1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち

- ・生涯学習と社会教育の境界については日頃から疑問に思っている。市としてどのように考えて事業を行っているのか、定義づけでもって分けるものではない。
- ・学校教育を終えて以降、生涯にわたって色々と学ぶべきこと、知るべきことが多くあるので、生涯学習・社会教育は必要である。
- ・市民が主体となり、市が市民のやりたいことについて耳を傾けるのは大切であるが、逗子市として生涯学習や社会教育の方向性が示されないと難しいのではないかな。
- ・学びつづける機会と場の提供、市民として勉強する必要があることを学べるよう市が支援すべき。
- ・社会教育は生涯教育であり、社会や環境の変化に応じて学び続ける必要性がある。しかし今は個人的な関心に基づく消費装置になってはいないか。逗子は市民活動が盛んと言われてきたが、市民活動が近年停滞し、団体が高齢化し、次を担う世代が育っていないことに危機感を感じている。市民参加の促進の意義を問い直す必要がある。活動の継続をサポートするような市の取り組みが必要である。
- ・生涯を通じて学びが必要であることはその通りと思うが、学校教育で目指す「国際社会の一員として」活躍できる人材を育成するという観点では危機感を感じる。GIGA スクールで生徒にタブレットを配布したが、配布することが大事なのではなく、その先の活用の仕方を学ぶ必要がある。そういった深み、広がりがある学びが必要であり、学ぶのは市民、市はそれを支える役割だと思う。市に求めることとしては、ただ学ぶ機会を提供するのみではなく、その先に何を得られるのか、どう活用できるのか、社会教育・生涯学習にはそうしたことを市民に気付かせるよう配慮、取り組みを期待する。
- ・海に面し山に囲まれている本市の特性を踏まえ、市民の生命と財産を災害から守ることについてそれぞれの地域住民が自発的に考え活動するように市もサポートして欲しい。命を守るということを大勢の人が話し合えるような取り組みを市に望みたい。いざというときに助けを求める組織が必要である。
- ・防災についても、例えば気候変動や環境問題等を通じて命の問題を考えることが私たちの生活にも直結している。物事を自分事としてとらえるためには、物事の背景や本質を知ることによって自分の生活を変えることが必要であり、社会教育・生涯学習のすべきことである。
- ・安全安心のまちや自然災害への備えについて、市としてもっと取り上げてほしい。自治会やそのテーマに関わる市民団体などに関わり、市の姿勢として積極的なアプローチをしてほしい。
- ・本市は人口や面積等、ちょうどよい規模の自治体であり、今回のような意見交換の場にもっと多くの方が参加するようにするという役割も、社会教育や生涯学習で取り組んで欲しい。

2 文化を新たに創造するまち

- ・アート活動は瞬間芸術であり、現場で、五感で感じるものが基本と考える。コロナ禍において生の芸術に触れる機会が減ってしまったことは残念。文化が後退したように思う。
- ・オンラインの活用も盛んではあるが、一方通行になっているのではないか。
- ・文化芸術、スポーツ活動単独ではなく、経済、観光との相乗効果で発展させることが必要になってくる。
- ・去年は直接アートやスポーツに触れる機会が制限され、現場で活動する方々にとっては大きな負担となっていた。
- ・文化プラザホールについて、指定管理者による運営でコスト削減には貢献しているが、市民サービスが行き届いているかは疑問である。市民が主役であるべきだが、指定管理者とのうまくリンクできておらず、弱体化しているのではないか。
- ・予算が厳しいのは重々承知しているが、現在のままでは市民の心の豊かさにつながるものになりえない。収益にはつながらなくとも、学校のイベントとして子供たちを招待するなど、文化芸術に触れる機会を提供するだけでなく、文化プラザの将来の利用につなげる取り組みが必要である。
- ・文化プラザホールの施設利用については、市内小学校なども巻き込んだイベントなどでオープンにできると良いと思う。
- ・アートフェスティバルの際、文化プラザでは同時配信が難しかった。オンラインの活用が不可欠な状況下であるため、施設のメンテナンスだけでなく、時代に対応した設備の導入も検討してほしい。
- ・逗子アートフェスティバル(ZAF)は、財政難の中よく頑張っていると思う。
- ・ZAFは、文化振興基本計画に基づき 2013 年から開催し市民にも定着してきている。
- ・ZAFにおいては、子供の参加への働きかけが必要である。子供が気軽に文化に触れる機会を提供してほしい。
- ・ZAFについては、高齢者、若者、子どもの各世代向けのプログラムが十分に提供されているか。子どもが主役となる企画を検討してほしい。
- ・郷土資料館が閉館後、保存状態が非常に悪い。名越の切通、桜山古墳などは整備されている。他の文化財と同様に逗子の歴史の一部として整備保存に努めてほしい。
- ・蘆花記念公園の維持管理が課題である。文化が市民の生活の中心であると捉えているのであれば、対応が必要である。
- ・アーカイブとして幅を広げて文化財の保存活用をするのであれば、資料館は対象になってくる。現在放送中の NHK ドラマに関連する施設等が市内にもある。それらを活用し、逗子の観光に繋げていけたらよいと思う。

3 スポーツを楽しむまち

- ・逗子アリーナを経由する高齢者バスは、多くの高齢者の方のスポーツ活動につながっている。
- ・逗子海岸は、逗子市のもっとも大きな財産でもある。この財産を利用し更なる活用につなげていく必要がある。
- ・共育のまち推進プランの基本構想にスポーツ都市宣言(昭和 59 年5月)についての記載をしてほしい。
- ・子供たちがスポーツを楽しむ、スポーツを通じて心の豊かさを養うことに、市はもっと力をいれるべきではないか。
- ・逗子の魅力はコンパクトで自然も多いところである。
- ・スポーツの祭典 2021 は、コロナ禍でありながら多くの方がスポーツを楽しんでいた。
- ・逗子市スポーツ協会の自主事業においても、子供から高齢者の方まで参加しやすい種目を実施している。コロナ禍で参加者の増減はあるものの、運動の場としての施設の存在は重要である。
- ・今後の課題は、スポーツに興味のない方々をどのようにスポーツ環境に誘導していくか、文化とコラボしながらスポーツ活動の PR をしていくと良いと思う。
- ・スポーツを通じて逗子市民が元気になることを願っている。

4 学校教育の充実したまち

- ・教員の過剰労働が目に見え、時間に余裕がなく、良いパフォーマンスができない。
- ・LGBTQ など、小さいころから継続して教育現場で取扱い、刷り込むことが大切。
- ・教員の幸福度を上げる取り組みが必要。学校に対して要望や相談があっても、そもそも教員が足りない状況。忙しすぎて時間も足りない。ちょっとしたことでいいから教員の負担を減らすべき。
- ・PTA の役員を引き受けたので、夏休みに学校へ行く機会があったが、教員が朝から晩まで仕事をしていた。
- ・GIGA スクールは、これからの取り組みが大切。
- ・学級運営の大変さ。先生の能力の差が表れる。一人ひとりゆっくり見られない。20 名を超えると十分に目が行き届かないと聞いている。経験豊富なベテランの教員はいいが、経験のない若い教員は大変。
- ・デフォルトで授業をカリキュラムする必要がある。
- ・GIGA スクールの取り組みは、逗子市は早かったので感謝している。
- ・GIGA スクールの共有連携が必要。逗子中学校では、欠席した生徒のために板書を撮影した画像を Google Classroom に掲載して見られるようになっている。他の学校では同じ取り組みはしていないのではないか。

- ・支援級に入れるか否かは、小学校に入る前から悩んでいる人がいるのではないか。
- ・支援級に入らなくても、中間的な段階で平たく支援を受けられればいいが、教員の数が足りない。
- ・逗子の支援教育は通級の数も学習支援員の数も他市町よりも充実している。通級指導教室が、全ての学校にあればいい。
- ・通常、保護者の送迎が必要。送迎をできない保護者は入級を諦めてしまっている。
- ・情緒障がいのある通級指導教室を作ればいい。
- ・お金と人の問題を解決するためには、支援ボランティアの仕組みを作る必要がある。勉強している人も多く、自分の子ども以外のお子さんを助けたいと思っている人も多い。
- ・中学校に通級指導教室ができるといい。小学校まできめ細かく見てもらっていたが、中学校に入ると支援が途切れてしまう。
- ・教員退職者（OB／OG）を放課後のボランティアに活用するなどの工夫。
- ・教育相談コーディネーターが仕事を行うキャバがない。
- ・地域の力を借りる仕組みとしてコミュニティスクールの推進。
- ・先生方のやることがダイバシティ的。やることが多岐にわたっている。
- ・LGBTQ は本人が気づいていないことがある。小学校の低学年から刷り込み的な授業がよいのではないか。
- ・部活動をはじめとする、教員でなくてもできることは委託するなども必要。
- ・給食の食缶に予算をつぎ込むならば、学校教育全体を見て話し合いをして決めるべきだった。
- ・外部講師（つばきの会や古墳の会）を招聘して授業を行っているが、担当が変わると実施しなくなることもある。逗子としてのカリキュラムを作る必要がある。
- ・地域で子育て世代のつながりがつぐれない。特に逗子小学校区では、子ども会がなくなったり、地域の運動会も開かれていなかったりで、地域側につなかりをつくるための機会がない。つながりをつくるためには、学校でつながるしかないので、学校を中心に地域とのかかわりが作れると良い。そのためには、コミュニティスクールになるのが良いと思う。＜再掲＞
- ・小学校や中学校で平和学習が行われているが、被爆者の会が働きかけて実現しているなど、市民の意欲だのみになっていて、学校によってまちまちであるし、継続性が担保されていない。＜再掲＞
- ・学校で平和について学べる機会をもっと作ってほしい。＜再掲＞
- ・学校での平和学習が継続的に行われるよう、学校のカリキュラムに対しても意見をしていかなないと意欲のある先生や市民団体に頼った展開になってしまう。そうならないためには、コミュニティスクールにしていくことが必要である。＜再掲＞
- ・以前にピースメッセンジャーを中学生対象に実施していたが、一部の生徒ではなく全ての生徒が学べる機会として、修学旅行先を広島にしてはどうか。以前にも学校に働きかけたが、実現は難しかった。＜再掲＞
- ・平和学習を実施した経験からは、小学校低学年でも理解できる、3年生に実施して、とてもよく理解してくれていた。＜再掲＞

- ・被爆地では夏休みの登校日に平和学習をしている例があるが、毎年、日を決めて学校で平和学習ができないか。＜再掲＞

5 子どもも大人も共につながり成長していくまち

- ・生涯学習と社会教育の境界については日頃から疑問に思っている。市としてどのように考えて事業を行っているのか、定義づけでもって分けるものではない。
- ・学校教育を終えて以降、生涯にわたって色々と学ぶべきこと、知るべきことが多くあるので、生涯学習・社会教育は必要である。
- ・市民が主体となり、市が市民のやりたいことについて耳を傾けるのは大切であるが、逗子市として生涯学習や社会教育の方向性が示されないと難しいのではないかな。
- ・学びつづける機会と場の提供、市民として勉強する必要があることを学べるよう市が支援すべき。
- ・社会教育は生涯教育であり、社会や環境の変化に応じて学び続ける必要性がある。しかし今は個人的な関心に基づく消費装置になってはいないか。逗子は市民活動が盛んと言われてきたが、市民活動が近年停滞し、団体が高齢化し、次を担う世代が育っていないことに危機感を感じている。市民参加の促進の意義を問い直す必要がある。活動の継続をサポートするような市の取り組みが必要である。
- ・生涯を通じて学びが必要であることはその通りと思うが、学校教育で目指す「国際社会の一員として」活躍できる人材を育成するという観点では危機感を感じる。GIGA スクールで生徒にタブレットを配布したが、配布することが大事なのではなく、その先の活用の仕方を学ぶ必要がある。そういった深み、広がりがある学びが必要であり、学ぶのは市民、市はそれを支える役割だと思う。市に求めることとしては、ただ学ぶ機会を提供するのみではなく、その先に何を得られるのか、どう活用できるのか、社会教育・生涯学習にはそうしたことを市民に気付かせるよう配慮、取り組みを期待する。
- ・海に面し山に囲まれている本市の特性を踏まえ、市民の生命と財産を災害から守ることについてそれぞれの地域住民が自発的に考え活動するように市もサポートして欲しい。命を守るということを大勢の人が話し合えるような取り組みを市に望みたい。いざというときに助けを求める組織が必要である。
- ・防災についても、例えば気候変動や環境問題等を通じて命の問題を考えることが私たちの生活にも直結している。物事を自分事としてとらえるためには、物事の背景や本質を知ることによって自分の生活を変えることが必要であり、社会教育・生涯学習のすべきことである。
- ・安全安心のまちや自然災害への備えについて、市としてもっと取り上げてほしい。
自治会やそのテーマに関わる市民団体などに関わり、市の姿勢として積極的なアプローチをしてほしい。
- ・本市は人口や面積等、ちょうどよい規模の自治体であり、今回のような意見交換の場にもっと多

くの方が参加するようにするという役割も、社会教育や生涯学習で取り組んで欲しい。

- ・郷土資料館が閉館後、保存状態が非常に悪い。名越の切通、桜山古墳などは整備されている。他の文化財と同様に逗子の歴史の一部として整備保存に努めてほしい。＜再掲＞
- ・アーカイブとして幅を広げて文化財の保存活用をするのであれば、資料館は対象になってくる。現在放送中の NHK ドラマに関連する施設等が市内にもある。それらを活用し、逗子の観光に繋げていけたらよいと思う。＜再掲＞

第3節 自然と人間を共に大切にすまち

1 自然を大切にすまち

【現状と課題】

- ・緑の維持管理は担い手不足が課題。協力方法が分からないのだと思う。
- ・まちなかの緑化について、逗子市の限られたスペースで行うために、工夫が必要。
- ・生物多様性は、実感しにくく、興味がわきにくい。担い手が足りないため、報酬面での工夫が必要。
- ・市内の 63%の緑被率との話があったが、宅地が細分化され、大きな木が全部切られてもったいない。切られた後に駐車場になる場合に、木が残っていると素晴らしい。木を残したら、補助金や減税などの制度を導入して、市外の人が憧れるような街をめざしたい。
- ・景観やゴミといった課題は全てつながっている。
- ・逗子市から離れて 30 年いろいろな街に住んで、久々に逗子に戻ってきた際に逗子の山が減ったと感じた。山・丘・海・川・緑といった逗子が逗子であれば、人は来ると思うので、便利さではなく逗子らしさを目指してほしい。みんな逗子が好きだから住んでいる。
- ・目先の取り組みではなく、将来のビジョンを明らかにして取り組んでほしい。
- ・公共施設の花壇づくりに、管理が不要な樹種を選べば、管理費用が軽減できる。
- ・子どもたちへの教育が必要と感じるので、地域の町内会と連携して取り組むべき。
- ・行政は何かと福祉・教育と言うが、子供に伝えるには大人が行動で伝えるべき。
- ・ビーチクリーンの取り組みには多くの参加者がいる。もっと上手にPRすべき。

【市に求める取り組み】

- ・市が公共施設整備・管理の際に選ぶ樹種について、検討すべき。
- ・河原を定期的に清掃しているが、もう少し頻度を増やしてほしい。
- ・逗子は丘の緑が特徴とを感じるが、整備・管理に目を向けていただきたい。
- ・市は広報紙やHPの周知だけで待ちの姿勢。本日の会議を市民が知らないのはもったいないので、もっと広報してほしい。
- ・宇都宮市では、10 歳の誕生日に半分成人式のイベントがあった。親子や子ども達が参加できるよう企画してほしい。
- ・相続で駐車場になる場合に、緑を残せば相続税が減税することはできないか？
- ・住民自治協議会で、ハイキングコースの話題を出したいが、テーマを出す機会がない。継続して議論するためには、市も協力してほしい。
- ・逗子市のイメージを共有できるよう、ビジョンをしっかり持ってほしい。
- ・市外への広報を実施すれば、ブランディング効果の増大が期待できる。
- ・転入者に市の取り組みの紹介をしてはどうか。

- ・逗子市を楽しんでいくような活動があるとよい。
- ・地域で課題が多様化する状況で、市域全体で考えるのは問題。地域毎に活性化の方策を検討すべき。
- ・安全でのびのびした場所ができるよう考慮してほしい。
- ・逗子はよい意味で時間が止まっており、前に進める必要はない。今ある地域の特色を生かしていくべき。

2 廃棄物による環境負荷の少ないまち

【現状と課題】

- ・カーボンニュートラルに向けてごみの焼却量を減らしていけないといけない。生ごみの減量化に向けた施設整備、分別の検討が始まる場所であると認識している。これらをごみとして扱うのではなく、資源もしくはカーボンニュートラルに向けて再エネルギー化するという視点も今後は必要になってくると考えている。
- ・食品ロス対策や色々なことがある。地球温暖化と同じように、市民全体が考えないとならないことのため、皆さんの認識が向上するとよいと思っている。
- ・生ごみの分別収集が始まるとのことだが、実家でコンポストを使用していたため、生ごみは捨てるという認識ではなかった。商店街でキエーロを見て、見た目も木でとてもよかったため購入し、生ごみは家で処理している。分別収集をするとなるとカラスがつつきやすくなると思い気になっている。
- ・市内でもアミーゴハウスでコミュニティコンポストをやっているとも聞くため、取り入れていくとよいと思う。
- ・小学校で給食の生ごみをコンポストで処理したいという保護者からの声も出ていると聞くため、子どもたちへの教育という機会も進めていけたらよいと思う。
- ・徳島県の上勝町にゼロ・ウェイストセンターがあり市民が持ち込んでごみを資源として活用している。逗子市でできる形で楽しく取り組めることをできるとよい。

【市に求める取組み】

- ・太陽光発電については二酸化炭素を削減する最大の武器ということで、20 年来増やそうと叫んできたが、太陽光パネルが今後ごみとして出てくることにショックを受けている。ごみとして出す先のことが見えていない。大きなごみの処理であり個人の力では解決できないため、行政あるいは専門的に勉強している方と話し合っ、方向性を示す体制を市民と行政とが協働して築いていくことが、今後の課題だと思っている。
- ・できるだけ具体的な数字を使ったロードマップを作り、可視化していくことが大切だと思う。具体的な数字があると皆やる気が出る。具体的な実行可能な目標と具体策を皆が共有していくこと

が大事だと思っている。このような皆と一緒に考える機会を増やしてもらえると有難い。

- ・生ごみは自家処理が第一義であり、自家処理できないものを分別して生ごみで出すことになると思う。今後、恐らくパブリックコメントや市民説明会で多くの住民意見が出ると思うので、しっかりとくみ上げてより良い処理方法を考えていければよいと思う。脱炭素については、逗子のごみの焼却炉がそろそろ寿命を迎える。広域連携もあるが、個人としてはエネルギーセンターとして、どうしようもなく出てきてしまうごみについては、適正処理をする。今後想定される大地震や津波など災害時の利用も想定して、自らエネルギーを作り出せるシステムを考えることが必要になると思う。横断的に色々な計画を検討できる場が設けられることを望んでいる。
- ・市民に興味を持ってもらうことが大切だと思う。このような会に自分から参加するには一つのハードルがある。「参加しても発言できるのか」と思っている人たちにとって、参加しやすい形での開催、色々な会があることの発信をしてもらい、楽しく参加できれば継続参加につながる。ゲームも活用する等、小さな子どもたちにも興味を持ってもらえるような活動をお願いしたい。
- ・家庭用生ごみ処理容器の補助金はあるが、それでも 5,000～6,000 円して高い。もう少し手軽に使える生ごみ処理容器があるとよいと思っている。
- ・容器プラの削減に取り組んでいる。容器を持って買い物できる店舗を市内で募集し、ごみ削減やごみ問題を知ってもらえるイベントをしたら楽しいと思う。雨の日の使い捨てのビニール傘袋が無駄だと思っている。図書館に意見を伝えたところ、リサイクルをしているから問題ないと言われたが、リサイクルよりもごみを減らすことが大切だと思うので、「無駄」について意見を挙げてもらって、削減する等の取組をしてもらえればと思う。

【その他】

- ・情報提供である。安いコンポストという話があったが、ダンボールコンポストという製品が出ていたので対象にできればよいと思う。コンポストは庭がないと使いづらいため、そのようなところはどうしていくのかということはあると思う。
- ・地球温暖化は一つの部署が担当するものではない。環境都市課が先頭に立ち、逗子市全体で取り組んでいく体制にできたらよいと思う。横断的な体制にできるとよい。
- ・逗子市のごみだけでは量がないため発電できないかもしれないが、広域処理によりごみ量を集める。下水処理場では下水汚泥の問題もあるため、下水汚泥を集めてきてメタンガス化して、残ったものを焼却する、焼却するにしても発電をする。ある程度集約してやることはアイデアとしてありだと思う。昔はごみ処理施設は超迷惑として扱われてきたが、考え方は変わってきていると思う。災害時にその電力を使うということもありだと思う。住民と話し合いをして行く必要はあるが、視点を変えた考え方もあると思う。逗子市内は全て再生エネルギーで賄っているといった形になれば素敵だと思う。
- ・生ごみの分別を始めようという検討が進んでいくが、コンポストで堆肥がでてくる。本当の意味での地産地消になればよいと思う。
- ・回収日が違うごみは、ごみステーションに置いたままにしておくことがあると思う。あきびんの回

収について、一升瓶の緑や茶色、リターナブルびんが捨てられていることがある。どう処理するのか環境クリーンセンターに聞いたところ、収集して碎いていると聞いたが、使えるびんが入っていたらそのまま置いておくなど、有効な資源が無駄にならないようにしてもらえればと思う。

- ・週末にたくさん観光客が来る地区では、街の中にゴミを置いて行ってしまうという問題があった。自治会で独自に集まって月に1回掃除していた。驚くほどのたくさんのごみが集まったり、たばこのごみが多く見られたりしていた。現在のコロナ禍と、高齢者が多くなっているため集まりがなくなってしまった現状がある。皆さん個人的に行っているかと思う。環境がよいので年間を通して観光客がくる。予算の問題もあると思うが、ゴミのロボットなど新しい機器の導入ができると、楽しく、明るく、きれいなまちをめざせると思う。
- ・道端に捨てられたゴミは風吹くと飛んできて危ない。＜再掲＞
- ・太陽光発電を増やそうと進めてきたが、太陽光パネルの廃棄が課題となってくる。処理方法や費用など不透明な部分があり、行政の方針等を示してほしい。＜再掲＞

【メールで受け付けた意見】

- ・ゴミ資源化率 45%県内トップ3についてどこが1、2位か？見習う点はないのか？
 - ・2024 年後半生ゴミの分別収集、資源化予定について具体策はあるのか？
 - ・藤沢小学校で給食残渣と近所の家庭の生ゴミの堆肥化事業があったが、都合により止めた。できた堆肥を市民に無償配布した。
 - ・今、やっているかわからないが、10 年前頃に長野県飯田市では、生ゴミの回収を市役所で実施していた。専用の袋があったと思う。
 - ・資源化にメーカ、販社(園芸店含む)に譲渡したらどうか？
 - ・コンクリートの材料の一部、土壌改良材、肥料に使えないか？
 - ・灰として使えるならば市役所等で配布。
- ① 資源ゴミをしばるのにビニールひもを使用が3～4割くらいあるが、紙紐を使う理由を書いて掲示したらどうか？
 - ② 他地区、他市町の心無い人が通勤、買い物などで移動してきて、家庭のゴミを自治会設置～運用しているゴミ集積場に収集日以外のものを無差別に不法投棄している。廃棄物処理法違反で、5 年以下の懲役もしくは 1 千万円の罰金と監視カメラ稼働中と記載～表示して、抑制効果を狙ったらどうか？
 - ③ 家庭生ゴミの自家処理容器の普及促進で生ゴミの減量対策は、良いと思うが、家庭菜園や市民農園を利用していない家庭は、できた堆肥をどう処理しているのか？不思議である。出来た堆肥を欲しい人に差し上げたらどうか？例えば、名越の里山で使ってもらうとか？収集運搬は、パブリッシングサービスに委託するなど提案したい。

3 温室効果ガス排出の少ないまち

【現状と課題】

- ・市民団体である「ずしし環境会議」について、以前は市の要綱で規定された団体（要綱団体）で市の予算で活動できていたが、要綱団体ではなくなってから、メンバーの高齢化も進み、若い人がいない状況で組織の弱体化が深刻。
- ・子どもたちは、発電実験などへの興味が大きく、楽しみながら環境への意識を持ってもらえるよう市内の小中学校への出前授業や、市民まつりなどのイベントへの出展など、子どもたちへの環境教育をメインに活動している。最近はメンバー以外の方に頼んで来てもらっている。
- ・IPCCの報告等を見ると、大丈夫なのかと思う。2050 年カーボンニュートラルを目指すうえでは、2030 年までの目標をどう考えるかが重要である。サステナブルに楽しく無理なく取組みを進めなくてはならない。システムを変えること、意識を変えること、そして実態を知ることが大事。
- ・脱炭素宣言は良いと思うが、気候変動の影響を考えると、2050 年ではなく喫緊の課題と認識すべき。衣食住といったライフスタイルに起因する温室効果ガスは全体の6割を占めるというが、どの分野でどれだけといった現状分析を行い、一般市民として何が必要か、市としてロードマップを示す必要がある。
- ・行政の仕組みについても、一つの部署だけではなく横断的な体制を整えるべき。
- ・カーボンニュートラルに向けてごみの焼却量を減らしていけないといけない。生ごみの減量化に向けた施設整備、分別の検討が始まるところであると認識している。これらをごみとして扱うのではなく、資源もしくはカーボンニュートラルに向けて再エネルギー化するという視点も今後は必要になってくると考えている。＜再掲＞

【市に求める取組み】

- ・太陽光発電を増やそうと進めてきたが、太陽光パネルの廃棄が課題となってくる。処理方法や費用など不透明な部分があり、行政が方針等を示してほしい。
- ・カーボンニュートラルに向け、ロードマップ等で可視化してほしい。やり方によっては、逗子市で、2030 年のカーボンニュートラルの可能性もあると言う方もいる。具体策を共有し、一緒に考える場が望まれる。
- ・断熱リフォーム等による省エネも効果的。市民も事業者も知識を深めていけたら。
- ・地球温暖化は一つの部署が担当するものではない。環境都市課が先頭に立ち、逗子市全体で取り組んでいく体制にできたらよいと思う。横断的な体制にできるとよい。＜再掲＞

【メールで受け付けた意見】

- ・2050 年ゼロエミッションは、野望的挑戦で評価できるが、市として実現可能と考えるか？
- ・化石燃料の使用をゼロにできるとは思えない。
- ・政府は自然エネルギーへの期待度を高くしているが、自然の力はわからない。

① 商業施設、公共施設の屋上緑化の義務化

屋上で芝生、野菜栽培も可能になり、CO2 削減になる。→

- ・夏場の建物の最上階の温度を下げる効果、冬場のエアコンの電気量が削減できる。
- ・屋上緑化のメンテナンス作業を高齢者に任せることで、雇用機会が創出できる。

② 電気使用量を減らす。

- ・公共施設の PM7:00 閉館をする。
- ・市民に、夜更けまで、テレビ視聴、ネット利用を控えるように知らしめる。

③ 水道水の節約

水道水をつくるのに、多くの電気を使いポンプや浄水器を稼働させていることはあまり知られていないと思う。

- ・歯磨き中の水道水の垂れ流しをやめる。
- ・お風呂の水の再利用をする。
- ・庭の水まき、家庭菜園の水に使う。
- ・雨水の利用⇒雨樋の改造で、雨水タンクに雨水を引き込む。

4 暮らしと景観に配慮したまち

【現状と課題】

- ・まちなかの緑化について、逗子市の限られたスペースで行うために、工夫が必要。
- ・景観のかわら版(景観広報誌)にスケッチ載せていただいているが、海が主体の記事であると感じる。丘(おか)をもっと取り上げてほしい。
- ・まちなみデザイン逗子賞で自分の推薦したものが表彰されて感動したが、その賞を市民が知っているのか疑問。市役所はPRが下手だと思う。
- ・市内の 63%の緑被率との話があったが、宅地が細分化され、大きな木が全部切られてもったいない。切られた後に駐車場になる場合に、木が残っていると素晴らしい。木を残したら、補助金や減税などの制度を導入して、市外の人が憧れるような街をめざしたい。
- ・相続により宅地が細分化されるのは切ない。
- ・景観やゴミといった課題は全てつながっている。
- ・生活しやすさを追求した結果、逗子市が無機質になってさみしい。
- ・逗子市から離れて 30 年いろいろな街に住んで、久々に逗子に戻ってきた際に逗子の山が減ったと感じた。山・丘・海・川・緑といった逗子が逗子であれば、人は来ると思うので、便利さではなく逗子らしさを目指してほしい。みんな逗子が好きだから住んでいる。
- ・目先の取り組みではなく、将来のビジョンを明らかにして取り組んでほしい。
- ・公共施設の花壇づくりに、管理が不要な樹種を選べば、管理費用が軽減できる。
- ・子どもたちへの教育が必要と感じるので、地域の町内会と連携して取り組むべき。

- ・行政は何かと福祉・教育と言うが、子供に伝えるには大人が行動で伝えるべき。
- ・ビーチクリーンの取り組みには多くの参加者がいる。もっと上手にPRすべき。

【市に求める取組み】

- ・市が公共施設整備・管理の際に選ぶ樹種について、検討すべき。
- ・河原を定期的に清掃しているが、もう少し頻度を増やしてほしい。
- ・逗子は丘の緑が特徴とを感じるが、整備・管理に目を向けていただきたい。
- ・市は広報紙やHPの周知だけで待ちの姿勢。本日の会議を市民が知らないのはもったいないので、もっと広報してほしい。
- ・相続で駐車場になる場合に、緑を残せば相続税が減税することはできないか？
- ・総合計画が25年単位の計画で2期目だそうだが、景観について、これからの状況の変化により進んでいくこともある。
- ・逗子市のイメージを共有できるよう、ビジョンをしっかり持ってほしい。
- ・市外への広報を実施すれば、ブランディング効果の増大が期待できる。
- ・転入者に市の取り組みの紹介をしてはどうか。
- ・逗子市を楽しんでいくような活動があるとよい。
- ・地域で課題が多様化する状況で、市域全体で考えるのは問題。地域毎に活性化の方策を検討すべき。
- ・安全でのびのびした場所ができるよう考慮してほしい。
- ・逗子はよい意味で時間が止まっており、前に進める必要はない。今ある地域の特色を生かしていくべき。
- ・空き家対策として、湯河原町のカギっ子の居場所づくりのような事例がある。逗子市でも活用すべき。

第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち

1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち

- ・空き家対策として、湯河原町のカギっ子の居場所づくりのような事例がある。逗子市でも活用すべき。＜再掲＞
- ・高齢者の増加に伴い、空き家も増えて心配。＜再掲＞

2 災害に強く、犯罪のない安全なまち

- ・海も近いのに住んでいる地区の避難所がなくなってしまった。（桜山）
- ・海と川が近い逗子なので災害について自助公助について言及していきたい。
- ・防災行政無線を流す際に地域の災害リスクに応じたきめ細やかな災害情報を流してほしい。
- ・避難行動要支援者名簿を配っているがほとんど機能していないのではないかな。
- ・防災行政無線が鳴ってもどのように行動して良いか分からない。
- ・防災行政無線についてエコーがかかってあり良く聞こえない。
- ・市の避難情報について雨があがったときに警報がなるので状況にそった放送をしてほしい。
- ・逗子1丁目に住んでおり電池や蓄電が大切だと思っているが避難所でも充電が可能か、また購入する際も補助金等はあるのか。また Wi-Fi 環境もどうなっているか知りたい。
- ・どの世帯でも使える防災チャートみたいなものが欲しい。
- ・逗子市は踏切によって渋滞が生じている（小田急線では地下化をして交通渋滞を解消している）。
- ・ごみ屋敷について民地だから対応できないという一点張りではなくどのように解決できる市でも考えてほしい。
- ・安全と自然の両立をできないか（土砂崩れの危険回避には土止めが必要だがその分景観は悪くなる）。
- ・海に面し山に囲まれている本市の特性を踏まえ、市民の生命と財産を災害から守ることについてそれぞれの地域住民が自発的に考え活動するように市もサポートして欲しい。命を守るということを大勢の人が話し合えるような取り組みを市に望みたい。いざというときに助けを求める組織が必要である。＜再掲＞
- ・防災についても、例えば気候変動や環境問題等を通じて命の問題を考えることが私たちの生活にも直結している。物事を自分事としてとらえるためには、物事の背景や本質を知ることによって自分の生活を変えることが必要であり、社会教育・生涯学習のすべきことである。＜再掲＞
- ・安全安心のまちや自然災害への備えについて、市としてもっと取り上げてほしい。自治会やそのテーマに関わる市民団体などに関わり、市の姿勢として積極的なアプローチをしてほしい。

<再掲>

- ・逗子は充実しているなど思っている。地域によっては自治会がない。必要がなかったから。例えば防災的なもの、何かあったときどうなるのだろうという心配がある。<再掲>
- ・何かあったときの対応について市に考えてほしい。防災倉庫のようなもの？河川が近いといったこともあり不安。<再掲>

3 歩行者と自転車を優先するまち

【現状と課題】

- ・以前から東逗子の副都心化ということを商店街の先輩方から言われていた。例えば東逗子を中心に池子の方へのアクセスをつくる巡回バスやグリーンヒル、アーデンヒル、イトーピアへのバスを東逗子駅から発着させるなどができないか。
- ・歩行者が通る道を本日確認してきたが、山の根側のガードレールの設置方法が悪いため、歩行者の有効幅員が狭くなっている。同じ費用をかけるならば、工夫すべき。
- ・歩道が高齢者にやさしくない。少しの工夫でやさしくなるのではないか。
- ・自転車で、小さい子供とその前に親が走っている。怖くないのか心配になる。
- ・車が2台すれ違うことができない狭い道が多く、歩行者が車を避けなければならず、歩行者が堂々と歩けないところが多い。
- ・引越してきて思ったのは、道が狭いこと。これを行政としてどのようにしていくのか気になる。
- ・子育て中の方はベビーカーなどを押して歩くが、道が狭く、歩道がデコボコなので、子育ての面からも考えていく必要がある。
- ・車を通さない道を作ることや、歩道のデコボコをなくすだけでも違ってくと思う。
- ・ガードレールなどでも車目線であることが、分かる。歩行者目線で道路環境を整備する必要があるのではないか。
- ・逗子市内にある例として路側帯の幅を 1～2mに広くして、色分けして歩行者、自転車が通るゾーンを作ったことにより、車が意識をするようになった。そのような構造(区分)を作ることは有効。
- ・逗子駅から東逗子駅にかけて県道 24 号の北側に水道路があるが、その道を自転車・歩行者が通る道として、分けをする方法で、違った展開があるのではないか。エリアを明確にすることにより、車が徐行したり、車が歩行者や自転車を避けたりするエリアになるのではないか。道路の使い分けができる。
- ・今はなんでも車が悪くなるが、歩行者の責任もあるのではないか。お互いを思いやる道路のすみわけが必要なのではないか。
- ・歩道のすみわけはどうなっているのか。高齢者と幼児は歩道を走ってもよいと広報に掲載されていたと思うが、それでよいのか。

【市に求める取組み】

- ・市民が認識しなければならないこととして、自転車の交通ルールを守ることが先決。
 - ・歩道に設置されている標識がなくなったからよかったと思っていたら、新しい標識が立った。何も考えずに設置しており、怒り心頭となった。
 - ・逗子駅周辺と東逗子駅周辺の格差がある。交通網を逗子から東逗子へ移してもらうべき。逗子駅周辺は雨が降ると車両の渋滞が発生する。駅前ロータリーが中心となって渋滞が発生し、銀座通り、なぎさ通り、池田通りみんな詰まってしまう。そういうことが減ればいいので、東逗子駅とすみわけができるとうい。
 - ・東逗子駅前広場を商店街が利用している。そこに建物を建てる計画があるが、そこに行政サービスなどがあれば、市民が分散し、まちを訪れるきっかけとなる。最低限の公共施設が東逗子にもあると人の流れも違ってくる。なるべく東逗子にもってきてほしい。
 - ・参考事例として、学生時代京都に住んでいたが、京都は逗子以上に自転車の数も多く、自転車はやりたい放題、車道を自由自在に横断したりしていたが、段々変わってきた。その方法として、ステッカーの掲示などもあったかもしれないが、効果的な手法としては、警察と協力し、また、危険な交差点などに警備員を配置し、危険な自転車を停めて注意をしたことにより、改善されたので、参考にしてほしい。
 - ・近所で電柱の建て替えがあり、何度も建て替えている。
 - ・道路が狭くてもお金がなくて広げられないなら、企業誘致を頑張るようリクエストしたい。
 - ・逗子駅周辺で、JR が再開発をするようなニュースをみたが、民間主導だけで終わるのではなく、行政と協力し、そういうことをきっかけとして、ロータリーだけでもきれいにするなどをしてほしい。東逗子では頓挫したという話も聞いているので、同じようなことにならないように期待している。
 - ・逗子病院の近くであるが、歩道のど真ん中に電柱が立っているところがある。どうせ建てるなら脇の方に立ててくれれば、通路が確保できるのに配慮が足りない。現地を確認すればすぐにわかると思う。
 - ・安全で安心な快適な暮らしを支えるまちで、ハード面もあるが、住んでいる人の意識の問題もあるような気がする。移動するのも自転車に乗るのも車に乗るのも住民なので、これからもハード面を追求しつつ、ソフト面で啓発が必要なのだと思う。
 - ・逗子は暮らしやすいまちと言っていたいており、こちらに来ていただいた方には殺伐とした今の状況だから、我々自身も変えていかなければならないと感じた。
 - ・自転車のルール・マナーが悪い(特に親子ずれ)。
 - ・東逗子への交通手段の充実(東逗子駅へ行きづらい)。
 - ・私が後期高齢者になる前は地域を一回りするようなバスや路面電車があればいいなと思う。
- ＜再掲＞
- ・デマンドタクシーは便利だが、乗合のほうが、コミュニケーションも図れて地域の交流につながれてよい。＜再掲＞

- ・毎日、とりあえず一回りすることを日課にできて、その日その日で下車するところが変わるようなバスや路面電車があればいいと思う。＜再掲＞
- ・デマンドタクシーは便利だが、乗合でなければ出会いがなくてつまらない。＜再掲＞

4 都市機能の整った快適なまち

- ・逗子駅周辺の発展ばかりだが東逗子駅周辺も発展させてほしい。
- ・傾斜地に住んでいる。安全のためにコンクリートの壁が出来てしまうが、緑がなくなってしまう。何とかしてほしい。
- ・逗子市は素晴らしい立地なため鎌倉沿いのように国道の海側にも歩道を設置できないか。
- ・田越川付近は歩道が狭く高齢者の歩行に支障がでるため、歩道整備をして欲しい。＜再掲＞
- ・道路に関しては、電信柱と段差を何とかして欲しい。＜再掲＞
- ・子育て中の方はベビーカーなどを押して歩くが、道が狭く、歩道がデコボコなので、子育ての面からも考えていく必要がある。＜再掲＞
- ・車を通さない道を作ることや、歩道のデコボコをなくすだけでも違ってくると思う。＜再掲＞
- ・ガードレールなどでも車目線であることが、分かる。歩行者目線で道路環境を整備する必要があるのではないか。＜再掲＞
- ・逗子市内にある例として路側帯の幅を 1～2mに広くして、色分けして歩行者、自転車が通るゾーンを作ったことにより、車が意識をするようになった。そのような構造(区分)を作ることは有効。＜再掲＞
- ・逗子駅周辺と東逗子駅周辺の格差がある。交通網を逗子から東逗子へ移してもらいたい。逗子駅周辺は雨が降ると車両の渋滞が発生する。駅前ロータリーが中心となって渋滞が発生し、銀座通り、なぎさ通り、池田通りみんな詰まってしまう。そういうことが減ればいいので、東逗子駅とすみわけができるとうい。＜再掲＞
- ・東逗子駅前広場を商店街が利用している。そこに建物を建てる計画があるが、そこに行政サービスなどがあれば、市民が分散し、まちを訪れるきっかけとなる。最低限の公共施設が東逗子にもあると人の流れも違ってくる。なるべく東逗子にもってきてほしい。＜再掲＞
- ・道路が狭くてもお金がなくて広げられないなら、企業誘致を頑張るようリクエストしたい。＜再掲＞
- ・逗子駅周辺で、JR が再開発をするようなニュースをみたが、民間主導だけで終わるのではなく、行政と協力し、そういうことをきっかけとして、ロータリーだけでもきれいにするなどをしてほしい。東逗子では頓挫したという話も聞いているので、同じようなことにならないように期待している。＜再掲＞
- ・逗子病院の近くであるが、歩道のど真ん中に電柱が立っているところがある。どうせ建てるなら脇の方に立ててくれれば、通路が確保できるのに配慮が足りない。現地を確認すればすぐ

にわかんと思う。＜再掲＞

- ・東逗子駅前広場を商店街が利用している。そこに建物を建てる計画があるが、そこに行政サービスなどがあれば、市民が分散し、まちを訪れるきっかけとなる。最低限の公共施設が東逗子にもあると人の流れも違ってくる。なるべく東逗子にもってきてほしい。＜再掲＞

5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち

【現状と課題】

- ・2年前まで東京に住んでいた。逗子は自然豊かで暮らしやすいまちであるが、課題もある。
- ・商工業ではにぎわいのある、魅力あるまちで、逗子にとってのにぎわいとは何なのか。
- ・インターネットニュースの投稿で、逗子に関するものでなるほどと思ったのが、「逗子は、知名度はあるが、商売がうまくない。損をしている。」という記事があり、隣の鎌倉や藤沢には企業はあるが逗子にはないので、税収が低いことから、企業誘致をもっとすべきではないか。
- ・人のにぎわいは逗子と東逗子、小坪と大まかに分かれる。商店街の結束の強さを見たときに駅はあるが、東逗子は商店街の環境が劣っている。
- ・にぎわいでは、東逗子駅の広場で商店の人やこれからお店をやろうとしている人などの有志で年に3～4回ふれあい市場を開いていて、毎月第1日曜日 8時から9時半まで朝市をやっているが、人は来るが地元の商店になかなか結び付かないのが課題。地域格差をどう是正するか、商売や顧客のニーズに結びつけるかが、課題となっている。
- ・2代目から3代目へなど事業承継も課題となっている。

【市に求める取組み】

- ・東逗子駅前広場を商店街が利用している。そこに建物を建てる計画があるが、そこに行政サービスなどがあれば、市民が分散し、まちを訪れるきっかけとなる。最低限の公共施設が東逗子にもあると人の流れも違ってくる。なるべく東逗子にもってきてほしい。＜再掲＞
- ・逗子海岸は、逗子市のもっとも大きな財産でもある。この財産を利用し更なる活用につなげていく必要がある。＜再掲＞

第5節 新しい地域の姿を示す市民主権のまち

1 市民自治のまち

- ・今回の分野別意見交換会のような、市民が自由に意見を言える機会は必要だと思う。オンラインでの実施など、様々な人が参加しやすい新たな手法も検討するべきである。
- ・自由に意見を言える機会が定期的にあると良いと思う。
- ・自治会加入率を市としては維持したいという考えが示されたが、自治会加入率を上げる必要があるのか。同調圧力ではないか。
- ・地域で子育て世代のつながりがつくれない。特に逗子小学校区では、子ども会がなくなったり、地域の運動会も開かれていなかったりで、地域側につながりをつくるための機会がない。つながりをつくるためには、学校でつながるしかないので、学校を中心に地域とのかかわりが作れると良い。そのためには、コミュニティスクールになるのが良いと思う。

2 誰もが尊重され、自由で平等なまち

- ・悩む人や困っている人がなくなるような地域としたいし、そうした人がいれば支援したい。
- ・男女共同参画の現状がどのようになっているのかわからない。
- ・講座等の啓発の機会があっても興味のある人しか参加しない。
- ・学校教育との連携を図ってほしい。
- ・性教育など、保護者も子どもと共に学ぶことで、親の理解が進む面もある。
- ・時代の変化もあり、必ずしも親が手本ではない。
- ・親の話よりも専門家の話の方が有効な場合もある。
- ・男女共同参画について、学校のカリキュラムに入れてほしい。
- ・中学生の人権作文コンクールの表彰式は素晴らしいが、参加者が少ない。もっと多くの人に参加してほしい。人権作文の朗読の様子は、オンラインの配信や録画したものを中学校の授業で視聴するなどの方法も考えられる。
- ・子育てを始めると男女共同参画や地域のことについて興味関心が出てくる。
- ・子どもが小さいうちからジェンダーに関する教育をしてほしい。
- ・興味のない人に対してもきっかけづくりをしていくことが必要。
- ・社会教育課で良い企画をしており、良い講師を呼んでくれるが、平日昼間の開催で人が集まらず、興味があっても参加できない。録画であると聞ける人もいるので、オンラインの配信などをやってみてはどうか。
- ・子どもの健診などを活用して、子育て世代への発信の機会としてはどうか。子どもの権利条約や子どもの権利について、親に知ってほしい。

- ・LGBTQ など、小さいころから継続して教育現場で取扱い、刷り込むことが大切。＜再掲＞
- ・LGBTQ は本人が気づいていないことがある。小学校の低学年から刷り込み的な授業がよいのではないか。＜再掲＞

3 情報化で、よりよく暮らせるまち

- ・市は広報紙やHPの周知だけで待ちの姿勢。本日の会議を市民が知らないのはもったいないので、もっと広報してほしい。
- ・紙オンリーからワープロ、パソコンになった世代。デジタル化の世界は、日進月歩の世界であり8年後の展開が想像できない。
- ・スマートフォンは小さすぎて使えない。高齢者はパソコン程度の画面でないと使いきれない。
- ・デジタルの活用は逗子市の発展に寄与するものと考えている。
- ・スマホでもパソコンでも手続き等できるように考えてもらいたい。
- ・スマホ等とパソコンの両方を活用していくには行政の費用、手間が違うのか。
- ・資料に講座回数の紹介があったが、デジタル推進課が担当していない経済観光課、高齢介護課でも講座を実施していてもっと回数が多いはず。総括して集計できると良い。
- ・市民向けの講座等は市民の力をもっと使ってもらって、手続きに来る住民が減れば、相談業務に職員が注力できるので、行政・住民の双方にとって良いことになるのでは。
- ・子供が生まれたとき、家族が死んだときなどの手続きでデジタル化を活用してワンストップで洩れなく出来るようにならないか。
- ・情報漏洩が心配。しっかりと対応していると周知してもらえると心配している人は安心するのではないか。
- ・学校で生徒はタブレット等活用して授業を受けている。親は子供から教えてもらってスマホ、タブレット等を使っていくなどの広がりも効果的があると思う。
- ・行政サービス以外でもデータの活用が益々重要になってくる。(データサイエンス)
- ・今後の行政におけるデジタル化の未来像を聞いておきたい。
- ・市庁舎会議室のWi-Fi整備をし、会議、講演会等でその場で参加者のスマホ等を使って行政のデジタルサービスの紹介が出来るようにしてもらいたい。
- ・近所に高齢夫婦がおり、奥様が倒れて救急搬送された。その際ご主人がスマートフォンを持っていなかったため、関係者とつながれなかったため大変だった。高齢者もスマホを使えるようになれば、より安心できる。＜再掲＞
- ・一人暮らし高齢者の見守り等、民生委員にもICTが使える環境が望ましい。＜再掲＞
- ・緊急時等、高齢者の方の意思疎通が円滑に進むようにICTを活用したいと考えている。＜再掲＞
- ・高齢者と子どもとの交流については、スマホの使い方を中学生から学ぶ等の方法を取って欲

しい。＜再掲＞

4 世界とつながり、平和に貢献するまち

- ・平和デーの活動は高く評価するが、非核平和のイベント等は関心のある人しか参加しないなど、全ての人に届いていない。
- ・非核平和を実現するためには、もっと多くの人が歴史的な事実等を知ることが重要だと思う。
- ・小学校や中学校で平和学習が行われているが、被爆者の会が働きかけて実現しているなど、市民の意欲だのみになっていて、学校によってまちまちであるし、継続性が担保されていない。
- ・学校で平和について学べる機会をもっと作ってほしい。
- ・若い世代に知ってもらうことが重要であり、子どもを通じて保護者にも知ってもらいたい。
- ・学校での平和学習が継続的に行われるよう、学校のカリキュラムに対しても意見をしていかなないと意欲のある先生や市民団体に頼った展開になってしまう。そうならないためには、コミュニティスクールにしていくことが必要である。
- ・以前に、市にも提案し採用されなかったが、日本人にとって重要な日（6月 23 日、8月6日、9 日、15 日）に防災無線のサイレンを鳴らすなどして、黙とうの呼びかけをするべきである。多くの人が1分であっても平和を考える機会をもってほしい。
- ・以前にピースメッセンジャーを中学生対象に実施していたが、一部の生徒ではなく全ての生徒が学べる機会として、修学旅行先を広島にしてはどうか。以前にも学校に働きかけたが、実現は難しかった。
- ・現地で学ぶことが一番ではあるが、オンラインによる学習機会も作れる。
- ・平和学習を実施した経験からは、小学校低学年でも理解できる、3年生に実施して、とてもよく理解してくれていた。
- ・被爆地では夏休みの登校日に平和学習をしている例があるが、毎年、日を決めて学校で平和学習ができないか。
- ・米軍関係者が市内に居住しているが、同様な環境にある他の市町村に比べ国際交流の機会がない。他では英語の講師などを市民向けに実施している例がある。共同使用の施設があってもそれが交流の機会になっていない。
- ・市内のイベントが米軍関係の人にとっても参加しやすく、親しめるものとなると良い。

■ 当日資料

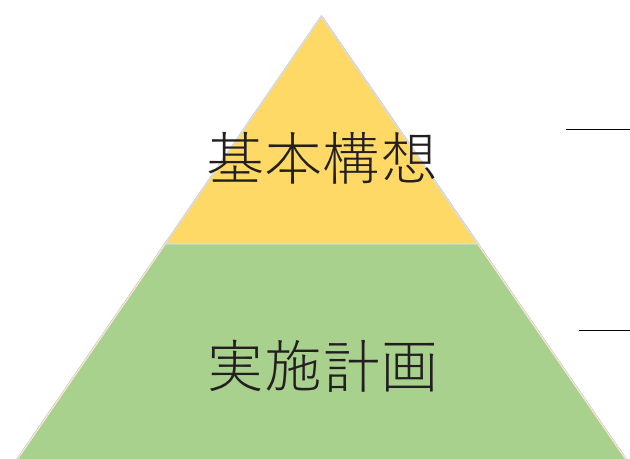
総合計画とは？

- ・ 地方自治体が総合的かつ計画的な行政運営を図るための計画。
- ・ 目指すべき都市像、その実現のための取り組みの方向や、事業実施の指針を示すもの。

地方自治法改正の経緯

- ・ 1969年(昭和44年)総合計画策定を義務付け
- ・ 2011年(平成23年)策定義務付け条項の削除

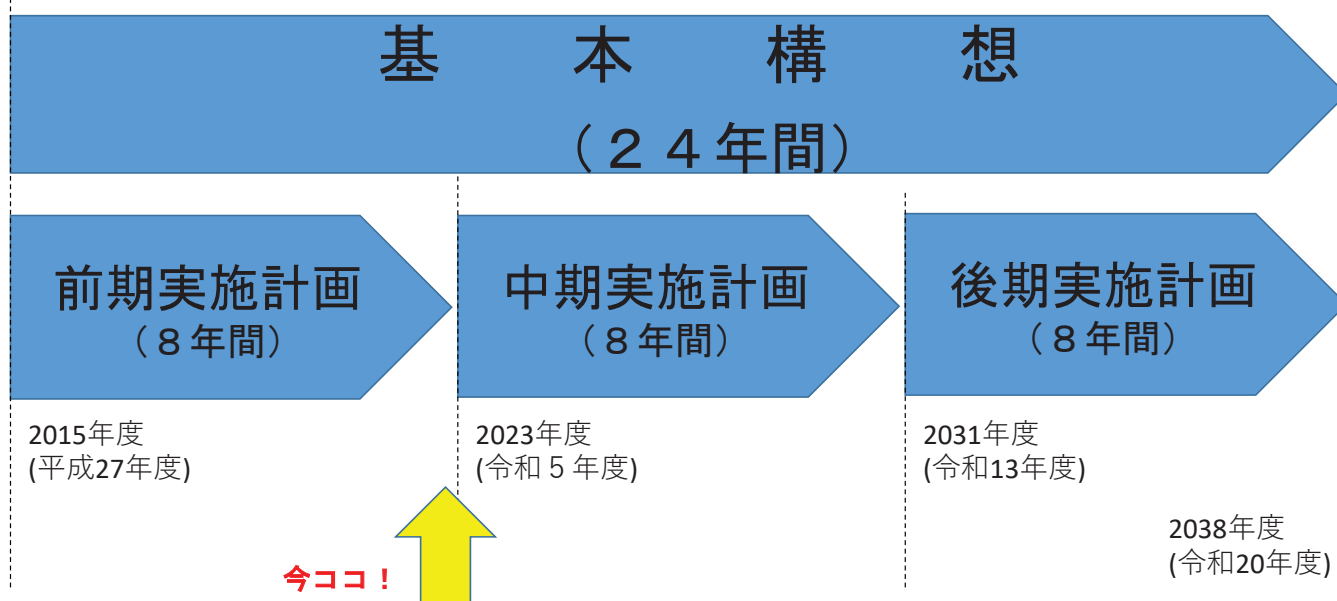
総合計画の構成のイメージ図



24年後の逗子市の将来像と分野ごとのめざすべきまちの姿、その実現のための取り組みの方向を示すもの

基本構想で示した将来像等を具現化するための、毎年度の予算編成及び事業実施の指針とする事業計画

総合計画の構成のイメージ図



基本構想（理想像、将来像）

いつまでも変わることのない理想像

青い海と みどり豊かな 平和都市



将来像

自然に生かされ、自然を生かすまち
コミュニティに支えられ、コミュニティを支えるまち



5本の柱（次頁）

基本構想におけるめざすべきまちの姿 (5本の柱)

- ・第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち
- ・第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち
- ・第3節 自然と人間を共に大切にするまち
- ・第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち
- ・第5節 新しい地域の姿を示す市民主権のまち

基本構想の取り組みの方向

・第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち

- 1 「その人らしく生きること」をお互いに支え合う福祉のまち
- 2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち
- 3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち
- 4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち
- 5 誰もが心豊かに子育てできるまち

■ 地域福祉

「その人らしく生きること」をお互いに支え合う
福祉のまち

目指すところ	現状
・ 公・共・私の互いの連携による、すべての人が住み慣れた地域で安心して住み続けることができるまちの実現	・ 高齢化・生活困窮等の地域生活課題は複雑化・多様化 ・ コロナウイルス感染症の影響によりその課題は顕在化 ・ 現在の取組は地域の多様な主体が共に支え合う意識がつながる施策

課 題

- ・ 生活困窮者自立支援事業
(目標)
自立相談支援事業により生活困窮者が自立した割合 30%
(令和2年度評価)
課題解決 37件 16% (未達)
- ・ 地域福祉推進事業
(目標)
 - ① 福祉教育活動 年間29回参加者1,300人
 - ② 避難行動要支援者の個別支援プラン作成 30%
(令和2年度評価)
 - ① 年間46回 参加者1,239人
 - ② 個別支援プランの作成割合 8・8% (未達)

■健康

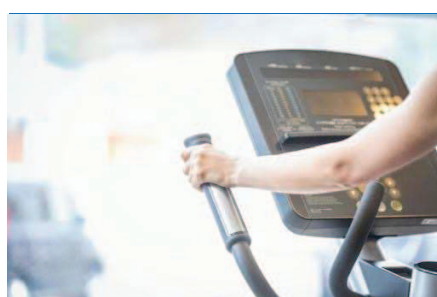
医療・保健・福祉が連携した安心・健康 長寿のまち

目指すところ	現状
①1人当たり医療費311,144円以下	①361,543円
②在宅医療の連携拠点の設置	②在宅医療・介護連携相談室を開設
③特定健診受診率が40%以上	③26.1%
④総合的病院の開設	④4度目も断念
⑤収容所要時間が36分47秒以下	⑤42.7分

課 題



医療費の増額は
避けられない



生活習慣病の
予防が鍵だが、
受診率は低迷



病院誘致のため
には病床の確保
が課題

■高齢者

共に生き心豊かに暮らせるふれあいのまち

目指すところ

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち
⇒地域包括ケアシステムの実現
- ➡地域の特性に応じたサービス（地域密着型サービス）の提供

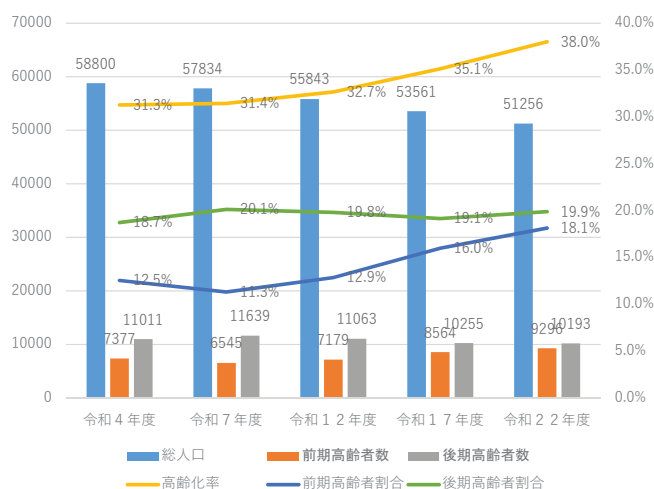
現状

（地域密着型サービス提供事業所）

- 小規模多機能型居宅介護支援事業所
⇒市内3か所開設済
（おーばる・ほーむ、福祉クラブ生協池子事業所、結生〈休業中〉）
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
⇒市内1か所開設済
（有限会社猫の手）

課 題 地域包括ケアシステムを進めるうえでの介護資源の不足

逗子市高齢者人口の将来推計



要支援・要介護認定者の将来推計



高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち

目標(逗子市高齢者保健福祉計画 令和3年度~令和5年度から)

- (1) 地域包括ケアに基づく地域共生社会の実現へ
- (2) 健康寿命の延伸に向けた施策の充実・推進
- (3) 認知症の人にやさしい地域づくりの推進
- (4) 介護保険サービスの基盤強化
- (5) 生活の質が持続できるまちづくりの推進

課題及び対策 (4) 介護保険サービスの基盤強化

① 介護保険制度の適切な運営

→高額介護サービス等給付事業、介護保険サービス低所得者利用者負担対策事業 等

② 給付適正化への取り組み

→介護給付等費用適正化事業

③ 介護人材の確保・業務効率化の取り組みの強化

→介護人材確保事業

④ 介護保険サービスの質の確保

→居宅（介護予防）サービス、地域密着型（介護予防）サービス 等

⑤ 高齢者の多様な住まい方の充実

→介護サービス施設整備、福祉用具・住宅改修支援事業、高齢者施設入所事業 等

障がい福祉

障がい福祉 ～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

目指すところ

障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

- ・相談支援体制の充実
- ・共生社会の基盤づくり
- ・障がいのある子どもの支援体制の充実
- ・社会参加の促進
- ・障害福祉サービス等の充実

現状

- ・居住の場の確保（R4目標）

市内のグループホームで生活する人が35人になっている R2実績 29人

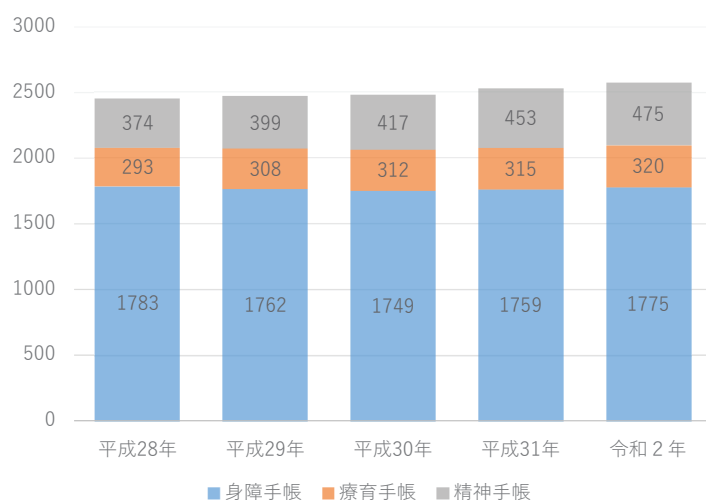
市内にあるグループホームが8棟になっている R2実績 7棟

障がい者の高齢化・重度化や親亡き後を見据えて、地域生活支援拠点等を令和2年度末までに整備する

R2実績 面的体制により整備

課題

障害者手帳所持者数の推移



- ・R2年3月末時点の手帳所持者の内訳をみると、身障手帳では重度の人が半数以上（971人）に上っており、年齢別では、7割以上（1,352人）を高齢者が占めている

- ・市内に障がい者の入所施設がないことから、緊急時の受け入れ先が確保できない



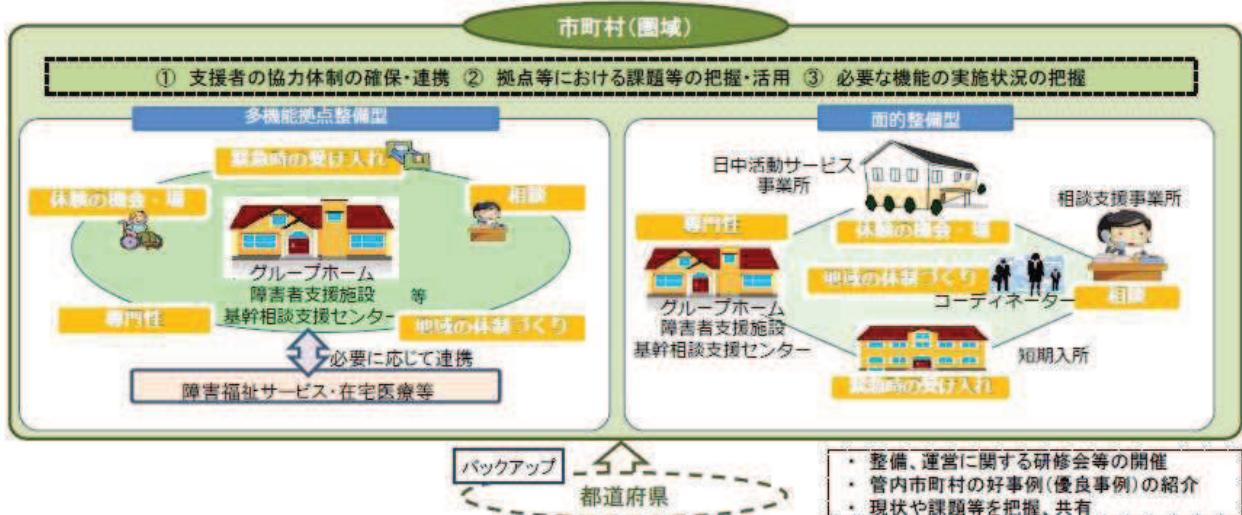
- ・居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）を整備

地域生活支援拠点等の整備について

障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、**居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）**を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築。

●地域生活支援拠点等の整備手法（イメージ）※あくまで参考例であり、これにとらわれず地域の実情に応じた整備を行うものとする。

各地域のニーズ、既存のサービスの整備状況など各地域の個別の状況に応じ、協議会等を活用して検討。



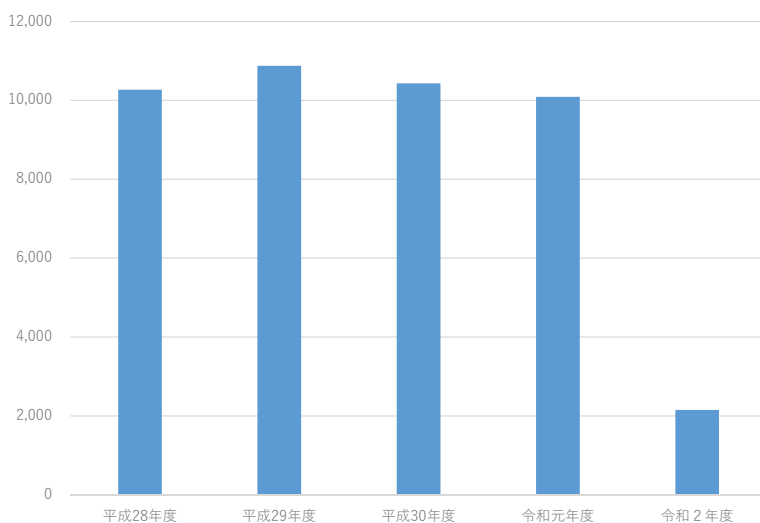
■子ども・子育て支援

誰もが心豊かに子育てできるまち

目指すところ	現 状 (令和2年度)
- 子育てに対する不安や孤立感を減らすこと - 保育所待機児童ゼロ	- 年間利用者数 896組 1,947人 - 年間開所日数 289日 - 待機児童数の傾向 保育施設の増や、弾力的運用などに伴い、受け入れ枠を増やしているが、待機児童は増減を繰り返して、ゼロにはならない。

課 題

子育て支援センター来所者数

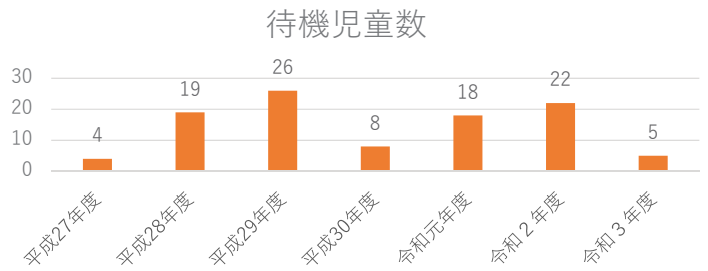
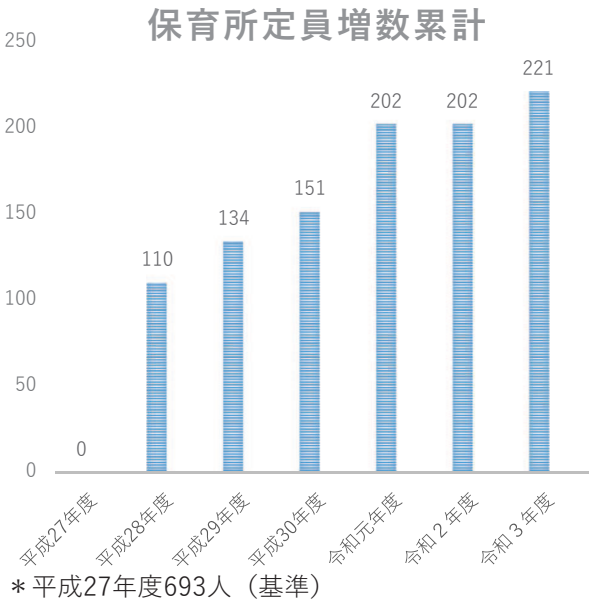


- ・コロナ禍の休所や人数制限
- ・子どもの居場所づくり
- ・ZOOMの導入



子育て支援センター

課 題



基本構想の取り組みの方向

・第2節 共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち

- 1 子どもも大人も輝く生涯学習のまち
- 2 文化を新たに創造するまち
- 3 スポーツを楽しむまち
- 4 学校教育の充実したまち
- 5 子どもも大人も共につながり成長していくまち

■生涯学習

生涯学習 子どもも大人も輝く生涯学習のまち

目指すところ

市民のだれもが、人生のどの場面でも、学びを楽しむことができるよう、教えあい、学びあい、学んだ成果が地域づくりへとつながっていくまちを目指します。

現状

様々な学びの場を検索できるWebサイト「ナニスル」を運用しています。

アクセス数62,754件（R2年度）
更新総計 1,041件（R2年度）

市内公共施設を学びの場として提供しています。

課 題

- 市民の自主的な活動としての生涯学習活動をさらに支援するには何が求められるか
- 社会教育との違い、すみ分けをどう考えるか
- 市民の自主活動ではなく、市が提供すべき学習機会とはどんなものか
- 生涯学習活動を進める上で、市内施設は十分に確保されているのか

■文化

文化を新たに創造するまち ～文化と自然がつむぐ活力あるまちへ～

目指すところ

- ・地域の文化を市民の手で拓く
- ・まちが文化を活かし、文化がまちを活かす地盤をつくる

現状

★リーディング事業

◎逗子アートフェスティバル（ZAF）

- ・トリエンナーレ方式（3年に1回規模拡大）で2013年から毎年開催

- ・主催：ZAF実行委員会 共催：逗子市
企画運営：逗子アートネットワーク（ZAN）

- ・ZAF2021は参加者6,309人、全22企画

→アートを通した市民のつながり、地域課題の検討

◎逗子文化プラザホール

- ・指定管理者制度による管理、運営
- ・自主文化事業の実施

→市内の文化活動の拠点としての役割

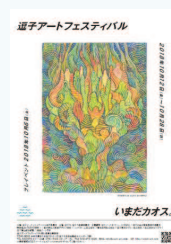
課 題

★リーディング事業

逗子アートフェスティバル

- ・予算や場所の確保
- ・担い手の育成
- ・新規参加の難しさ
- ・開催方法や周知方法の検討

2018
(参加者23,267人／37企画)



2019
(参加者6,000人／28企画)



2020
(参加者12,121人／14企画)



2021
(参加者6,309人／22企画)



→持続可能な活動や自立したコミュニティの必要性

■スポーツ

スポーツを楽しむまち

～誰もが気軽に健康づくりをするために～

目指すところ

- ・ひとりひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくる〔健康づくり〕
- ・みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営む〔場づくり〕
- ・スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪をひろげる〔交流づくり〕
- ・スポーツを通じて活力に満ちたまちづくりを推進する〔基盤づくり〕

現状

★リーディング事業

◎逗子市スポーツの祭典

- ・2015年から毎年開催
- ・主催：逗子市スポーツの祭典実行委員会、共催：逗子市、逗子市教育委員会、（公財）逗子市スポーツ協会
- ・2021年は参加者2,893人、全38種目
→スポーツに親しむ（継続する）ための機会の提供

◎逗子市立体育館（逗子アリーナ）

- ・指定管理者制度による管理、運営
- ・各種スポーツ教室やイベントの実施
→市内のスポーツ推進の拠点としての役割

課 題

★リーディング事業

逗子市スポーツの祭典

- ・コロナ禍における安全な開催方法
- ・スポーツをしない人へのきっかけづくり
- ・市内スポーツ団体や学校との連携
- ・幅広く参加してもらうための周知方法

2018
（参加者1,731人／25種目）



2019
（参加者2,494人／28種目）



2020
（参加者1,774人／7種目）



2021
（参加者2,893人／38種目）



→継続してスポーツに親しめる環境づくり

■学校教育

学校教育 ～21世紀を生きる逗子の子どもの育成～

目指すところ

- ・人間性あふれる教育、限りある命を生きていることの素晴らしさを感じることができる教育
- ・国際社会の一員として生きていく力を養う
- ・『自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども』の育成

現状

- ・「お互いを認め合える学級づくり」を学級担任をはじめ、学年所属の教員が常に意識し、教育活動を行っている
- ・自己チェックリストの活用
→年3回全教員が実施
- ・GIGAスクール構想により整備されたICT機器を活用した授業づくりを進めている

課 題

- 「お互いを認め合える学級づくり」が意識され実践されているものの、達成度を測る客観的な指標がない
- 自己チェックリストは、授業改善や学級経営改善の手段の一つとなっているが、教員間の活用なので、子ども側の思いや考えが見えにくい
- ICT環境は整備されたが、活用については、教員間・学校間で格差がみられる

■社会教育

社会教育 子どもも大人も共につながり 成長していくまち

目指すところ

広く市民に現代的課題、地域で取り組む課題、地域で子どもを育てる環境づくりに向けた各学習機会を提供し、啓発するとともに、まちづくりに積極的に関わることのできる「ひとづくり」を市民と共に取り組んでいきます。

現状

●学習機会として講座等を実施

- ・現代的課題として、社会問題の講座や、人権意識を養うための講座 【6講座】
- ・地域の課題の講座 【3講座】
- ・地域活動、地域に親しむきっかけづくりの講座 【16講座】
- ・家庭教育の講座 【5講座】

●文化財の保存と活用

課 題

学習機会の分野と社会変化

昨今の社会情勢を受けて、現代的課題、地域の課題、地域活動、家庭教育の学習機会分野毎の講座割合が適しているのか

達成目標の数値

家庭教育講座数を5講座実施すること、アンケート満足度80点以上を達成することを数値目標としており、分野・講座数など現状に則した数値目標の設定となっているのか

基本構想の取り組みの方向

・第3節 自然と人間を共に大切にするまち

- 1 自然を大切にするまち
- 2 廃棄物による環境負荷の少ないまち
- 3 温室効果ガス排出の少ないまち
- 4 暮らしと景観に配慮したまち

緑

～自然を大切にするまち～

目指すところ

自然と人の共生する まちづくり

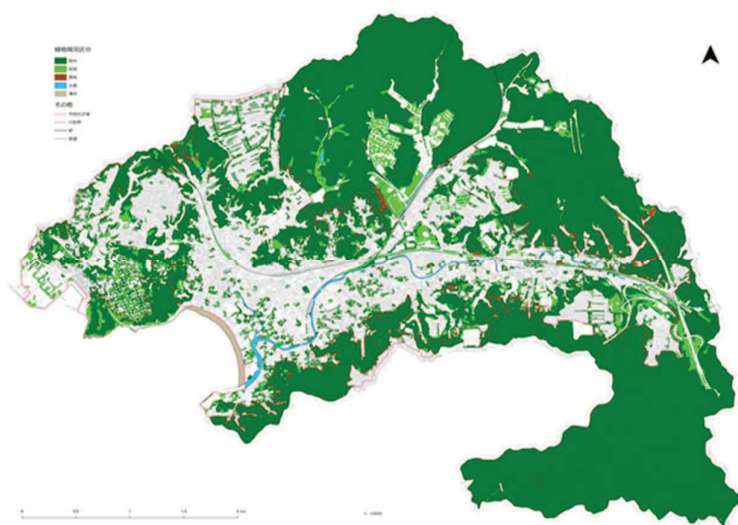
- ・ みどりを守る
- ・ みどりを増やす
- ・ みどりを活用する
- ・ みどりをつなぐ
- ・ 市民との協働

現状

- ・ 緑被面積1089.71ヘクタール、
緑被率約63%
(平成28年緑被現況調査)
- ・ 人口1人当たりの
都市公園面積 15.82㎡
(平成27年度)

課 題

H28年度 緑被現況図(300㎡以上)



- ・ 公園・市有緑地の適正な維持管理
- ・ まちなかの緑化推進
- ・ 市民団体と連携した自然観察会等実施と環境教育推進
- ・ 生物多様性に配慮する

■ごみ

ごみの減量化・資源化 ～廃棄物による環境負荷の少ないまち～

目指すところ

ゼロ・ウェイスト社会の実現

◆持続可能な循環型社会形成

- リフューズ（発生回避）
- リデュース（発生抑制）
- リユース（再利用）
- リサイクル（再生利用）



- ◆安定的・効率的な処理体制の整備
- ◆協働による循環型社会づくりの推進
- ◆ごみ処理の広域連携の推進

現状

2015年10月

家庭ごみ処理有料化・分別品目の変更

2020年8月

鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画

2021年3月

逗子市一般廃棄物処理基本計画改定



ごみ減量化・資源化の取組・市民の皆さんの協力

2市1町の資源化率45%以上県内トップ3

2024年度後半～ 生ごみの分別収集・資源化(予定)

課 題

◆ごみ排出に関する目標

1人1日あたり

ごみ排出量を797g以下に

2019年度実績 845g ➡ 2030年度 797g 以下

- 食品ロス対策
- 紙ごみの分別促進
- 生ごみの分別収集・資源化

家庭用生ごみ処理容器等の普及促進による
生ごみの自家処理推進施策の推進



◆資源化に関する目標

資源化率を60%以上に

2019年度実績 47.5% ➡ 2030年度 60%以上

- ごみ排出量の減量
- 紙類、生ごみ等の分別など

◆最終処分に関する目標

最終処分率を0.3%以下を維持

- ごみ排出量の減量による焼却残渣量の削減
- 焼却残渣の委託先の安定的な確保

地球温暖化

地球温暖化

～2050年カーボンニュートラルに向けて～

目指すところ

- 環境の保全及び創造に向けた行動により、持続的に発展することができる社会の実現

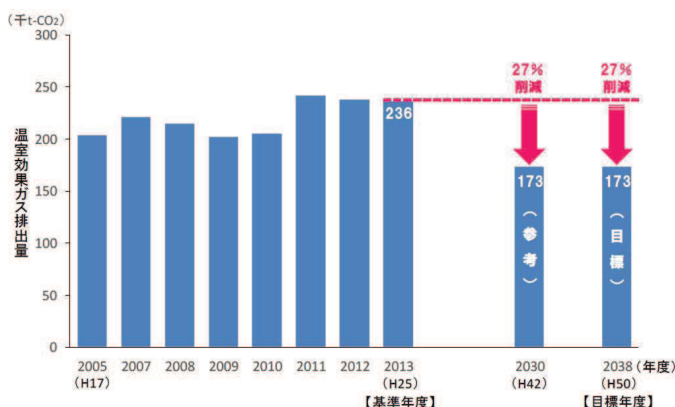
※逗子市環境基本条例（平成9年逗子市条例第2号）より抜粋

現状

- スマートエネルギー設備等導入支援の補助金制度の利用件数
現状：2022年度から新たな補助制度を開始
- 2022年度を目標年度とする第二次逗子市地球温暖化対策実行計画の目標値の達成
目標：平成25年度を基準年度とし、市の事務・事業から排出される温室効果ガス総排出量を約7.73%削減
現状：環境クリーンセンター等10施設への再生可能エネルギー電気の導入により、約26%削減（2021年度）

課題

逗子市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）における温室効果ガス排出量の削減目標



2050年カーボンニュートラル達成のため…

- 衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスは全体のおよそ6割
- 逗子市においては、住宅都市という特性から、生活全体に関係する温室効果ガス排出の大幅な削減が必要
- 市民・事業者と一体となり、国や他の自治体とも協力しながら取組みを推進

現状はどうか？
逗子市のビジョン、シナリオは？

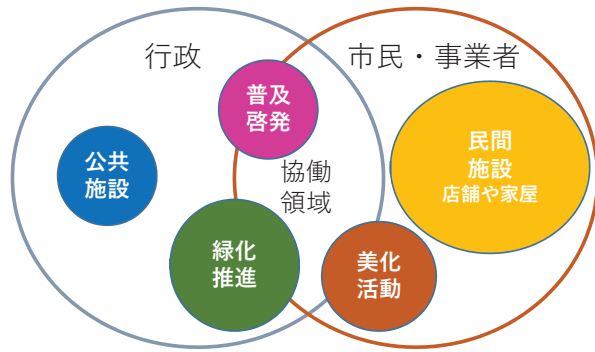
景観

～暮らしと景観に配慮したまち～



目指すところ

逗子の特性が生かされた良好な景観を守り、育て、将来に継承する



行政、市民、事業者がそれぞれの立場から協力し合い景観を維持・創出していく必要がある

現状

・2006年

逗子市景観条例を施行し、一定規模以上の建築・開発行為、屋外広告物においては条例手続きを課し、景観誘導を行っている

・2014年

普及啓発冊子「まちなみデザイン逗子」市民団体と共同発行

・2015年

フォトコンテストを実施し、景観資産17ヵ所を登録

・2021年

まちなみデザイン逗子賞を実施し表彰11件・認定24件を選出



規制 + 誘導

課題

公共施設

緑化推進

公共施設整備は安全とコストが優先され、景観は置き去り
斜面緑地は樹木が育ちすぎ、日照や通風が阻害され、
がけ崩れのリスクも誘発



民間施設

市民協働でまち歩きやワークショップ、
県立高校の景観学習
担い手不足、参加者の増加が課題
防災や子育てに比べ、興味を引きづらい



美化活動

普及啓発



周辺との調和よりも利益や個人の志向が優先される
新築物件は敷地内緑化がされず潤いの連続性が止まる

基本構想の取り組みの方向

・第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち

- 1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち
- 2 災害に強く、犯罪のない安全なまち
- 3 歩行者と自転車を優先するまち
- 4 都市機能の整った快適なまち
- 5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち

住環境

住環境

～くつろぎが生まれる多様なまち～

目指すところ

保全

逗子市の誇る良好な街並みや住環境を維持・形成し「ここで暮らしたい」と思わせる**固有のシティブランド（まちの価値）**を確立



融合

創出

若年・ファミリー世帯の流入増加や、ライフステージごとに市内での住替えがしやすいよう、戦略的に**魅力的で多様な住環境を形成**

現状

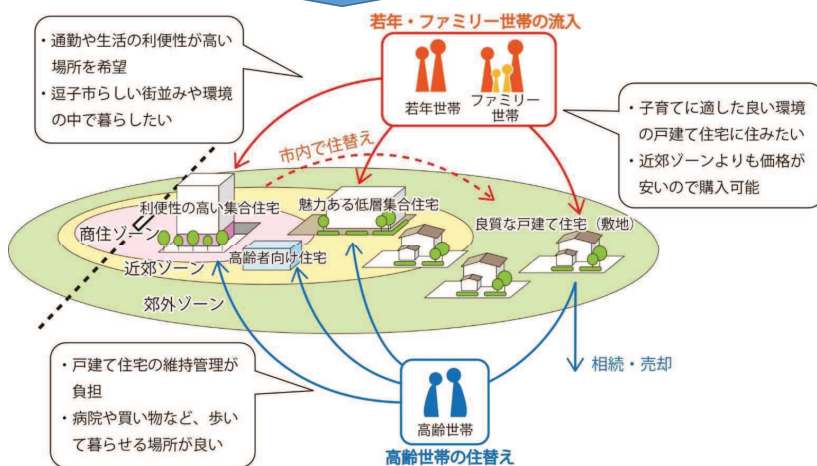
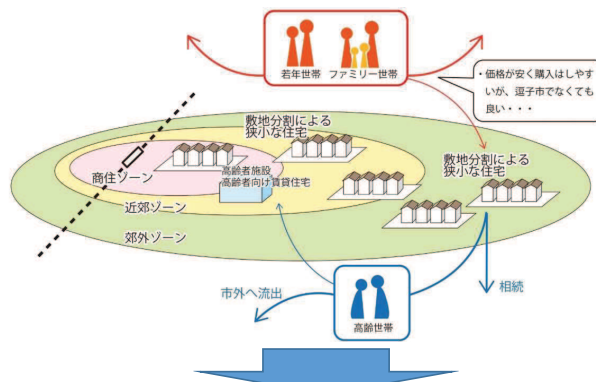
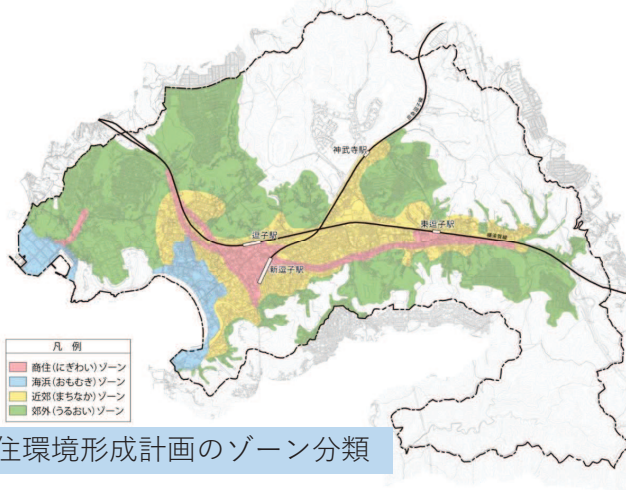
制定年	条例の名称	役割
1992	良好な都市環境をつくる条例	自然環境の保全
2002	まちづくり条例	土地利用の適正化 紛争の防止
2006	景観条例	景観の保全



自然豊かで低層戸建て住宅が主体の
住環境を守るための規制

課題

1. 歴史的な景観の保持
2. 人口維持・生産年齢層の確保
3. 賃貸を含め多様な住宅供給
4. ライフステージに応じた住替え支援
5. 空き家対策など、更新の適正化



■防災・防犯

防災・防犯 ～市民が安全に暮らせるまち～

目指すところ

【防災】市民が災害に対して正しく備え、災害発生時に適切に行動できるようにすること

【防犯】市民が犯罪（特に特殊詐欺）による被害に会わず安心して暮らせること

現状

- ・ 災害情報の周知・啓発
ハザードマップ改訂 全戸配布
防災教育の実施 4 小学校
防災行政無線更新 55箇所（39済）
- ・ 防災・防犯メール配信
防災 25通、防犯 38通
- ・ 迷惑電話防止機能付電話機購入補助
31台

課 題



- ・ 災害情報が伝わりにくい
例）無線が聞こえない
- ・ 災害情報が分かりにくい
例）警報、特別警報、警戒情報？
- ・ 情報があってもどう行動したらよいか分からない
例）結局私は避難が必要なの？
- ・ 防犯対策が必要な人ほど情報が届いていない

■ 歩行者・自転車

歩行者と自転車を優先するまち

～車中心の生活から、公共交通、自転車、徒歩中心の生活へ～

目指すところ

● 4つの基本目標

- ・安全で快適な歩行空間の創出
- ・適切な自転車利用ができる環境づくり
- ・公共交通アクセス手段の向上
- ・車に頼りすぎない仕組みづくり

現状

【2020年度】

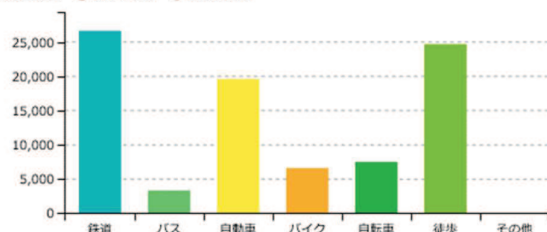
- ・イベントや環境都市課窓口で、周知ステッカーを配布した。(328枚)
- ・自転車の交通ルールについての特集記事を広報ずしに掲載した(2021年1月号)。
- ・原付二種で40歳代の事故が多いことから、市営駐輪場内に注意喚起ポスターを掲示した。
- ・歩行者と自転車のまちを考える会の主催で、「逗子カーフリーデー2020」(9月19日)と「トモイク自転車教室」(3月27日)を実施した。
- ・デマンド型乗合タクシーの実証実験は新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度に延期したが、関係機関、自治会等との協議を行った。
- ・シェアサイクル実証実験(経済観光課にて令和元年度より開始)の専用駐輪場(ステーション)を15箇所追加設置した(合計29箇所)。

課 題

地域の移動特性

手段別発生量・集中量

○ 発生量 ● 集中量 ○ 発生量



第6回東京都市圏パーソントリップ調査より
(調査時期：平成30年9月～11月)

・都市の構造的な課題

市内の主な都市機能がJR逗子駅周辺に集中している中で、幹線道路網が、逗子駅周辺地区を中心に放射状に配置されていることから、交通の多くは必ずこの地区を一度通過する

・自動車中心のライフスタイル

幹線道路網の整備が進んでいないまま、大規模団地がこれに“ブドウの房”のようにぶら下がり、自動車利用が増加したために、交通渋滞の発生や歩行者等の安全性が低下

■都市機能

都市機能 ～安全で快適なまちづくり

目指すところ 4つの基本目標

- 都市環境の改善
- バリアフリー化の推進
- 公有地の有効活用
- 公共施設の統廃合・再編・長寿命化

現状

- 狭あい道路整備の申請（R4）
目標：224件 R2：210件
- 防災工事費助成件数（R4）
目標：27件 R2：23件
- 浄水管理センターに関する基本事項の検討（R4）
目標：浄水管理センターの再整備の方針が確定している。
R2：再整備基本構想を策定

課題

- インフラ施設や公共建物の老朽化
- がけ崩れの頻発
- 障がい者、高齢者等が道路や公共建物を利用する際の不便さ



■商工業

商工業～地域のにぎわいがうまれるまち～

目指すところ

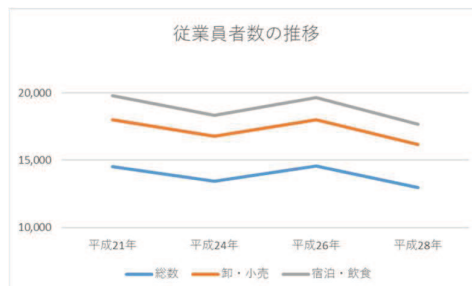
- 人が集い、ふれあいの輪がひろがり、地域のにぎわいがうまれるまちをつくること
- 住む人、働く人、訪れる人が一体となり魅力あふれるまちをつくること

現状と課題

(件)

	商工業者数	建設業	卸売業	小売業
平成13年	1,636	168	41	516
平成21年	1,744	165	71	445
平成26年	1,705	142	58	404

※平成13年は事業者・企業統計より、平成21年・平成26年は経済センサスより引用



※平成21年・平成26年は経済センサス基礎調査より、平成24年・平成28年は経済センサス活動調査より引用

現在の取組み

<市が商工会に助成している主な事業>

- 新型コロナウイルスのための相談窓口拡充
- 地域資源開発事業（特産品開発やふるさと納税関連事業）
- 創業支援事業

(人)

	創業セミナー	創業スクール	創業者
平成28年度	32	54(23)	8
平成29年度	37	23(21)	5
平成30年度	42	36(24)	6
令和元年度	66	58(33)	6
令和2年度	-	-	-
令和3年度	-	92(45)	3

※カッコ書きは女性の人数

※令和2年度はオンラインと動画配信サービスで189人が参加

※令和3年度は動画配信サービスで実施（件数は2/10時点）

- 平成28年度から創業支援を実施
- 創業に関心をもっている人が多い
- 本市は創業率県下で5位(2016年)
- コロナ不況も後押し
- 特に女性の参加が多い

基本構想の取り組みの方向

・第5節 新しい地域の姿を示す市民主権のまち

- 1 市民自治のまち
- 2 誰もが尊重され、自由で平等なまち
- 3 情報化で、よりよく暮らせるまち
- 4 世界とつながり、平和に貢献するまち

■市民自治

市民自治 ～市民が自治によって自らつくるまち

目指すところ	現状
・市民の声や知恵をいかしたまちづくり【市民参加】 ・多様な主体との協働によるまちづくり【市民協働】	・市民参加手続（R2） 12件・21人（パブリックコメント） ・イベントの後援等（R2） 95件

課 題

- ・市民参加の手法（情報公開、市民参加、住民投票等）は揃っているのですが、もっと活用してほしい。
- ・住民自治協議会の未組織地域をなくしたい。
- ・自治会・町内会の加入率を維持・向上させたい。
- ・（従来型の）地域活動の担い手が減少しており、新たな担い手を探したい。
- ・市民活動団体の活動を支援する方策を設けたい。

■人権・男女共同参画

人権・男女共同参画

目指すところ	現状
• 誰もが多様性を認め合い、自分らしく生きることができる社会 • すべての人が、あらゆる分野に対等に参画できる社会	• 新たな人権課題を知ってもらうための講座の開催 • 人権意識高揚を目的とした啓発活動 • パートナリシップ宣誓制度の開始

課 題

- 性別による役割分担意識や、それに基づく社会制度又は慣習は今なお根強く残っており、特に家庭での家事、育児、介護は未だ女性に多く偏っていること。
- すべての人が個人として尊重されるため、あらゆる暴力の根絶を目指し、DVやセクハラなど人権を侵害する問題の解消。

■ デジタル化

デジタル化 ～情報化で、よりよく暮らせるまち～

目指すところ

- ICT（情報通信技術）を積極的に活用することにより、便利で質の高い暮らしができること
- 情報化の推進により、あらゆる主体が、自らの活動を発信し、コミュニケーションを豊かにすることで、よりよくつながり、いきいきと暮らせる

現状

- 各種行政手続きの電子申請化を検討
- スマートフォンからマイナンバーカード、クレジットカードを用いた電子申請の導入準備中
- 無料スマホ講習会の実施
- 業務改善（ペーパーレスほか）

課 題

◎令和7年度までに手続き等を来庁するか、または家にいながら行うかを自ら選ぶことのできる、住民の利便性の向上を実現する市役所を目指す。

- 行政手続きのオンライン化
- 会議・相談業務のオンライン化

◎スマホやパソコンを得意としていない方への利用促進

令和3年度「無料スマホ講習会開催実績」

	対面講習	オンライン講習
実施回数	13回 (13会場)	5回
申込者数	151人	52人
参加者数	126人	44人
受講率	83.44%	84.62%
1回あたりの平均受講者集	10人	9人

■ 国際・非核平和

国際・非核平和

世界とつながり平和に貢献するまち

目指すところ

逗子から世界に向けて、世界の恒久平和や調和ある発展についてメッセージを発し、貢献するまちを目指します。

現状

フェアトレード啓発事業の実施
ずし平和デーの実施

課 題

- 市民団体によって支えられている事業であるが、担い手が不足しており、若い世代などの新たな担い手を開拓したい。
- 市民への認知度が低いので、多くの人に参加し、興味を持ってもらいたい。